

科目名	expression A (1) (Guitar Melodic concept (1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	飯島彰悟
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ツアー、サポートギタリストとして活躍。ロサンゼルスでの活動を経験し、バンドでの中国全土ツアーを2度経験している。						
授業の学習 内容	スケール、コードトーン、フレットボードの理解を深める。						
到達目標	学生の演奏技術の向上、インプロヴィゼーション(即興演奏)についての学習とスケールの使用、アルペジオ、コードトーンへの着地を経由したソロ構築の習慣を身に付ける。また、西洋音楽におけるメジャースケールの理論的知識とその重要性を理解し習得する。						
評価方法と基準	出席率と実技(実技と理解力)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)	
1		講義・発表	インプロヴィゼーション(即興演奏)とその練習法についての解説をする。メジャースケールとその解釈、西洋音楽におけるダイアトニックコードの重要性について学ぶ。最初の週ではメジャースケールの第4形を学び、同スケールとターゲットトーンを使用したインプロヴィゼーションの練習を行う。コード進行は基本的なI-IV-VI-V進行で行う。	1.メジャースケールの第4形を覚える。2.コードトーンで解決するインプロヴィゼーションの方法を理解する。	
2		講義・発表	メジャーペンタニックスケールの第4形と、メジャースケール第4形に内在するダイアトニックのアルペジオについて解説をする。学生はメジャーペンタニックスケールの第4形と、メジャースケール第4形に内在するダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行は基本的なダイアトニックの進行で行う。	1.メジャーペンタニックスケールの第4形を覚える。2.メジャースケール第4形に内在するアルペジオを覚える。3.メジャーペンタニックスケールとダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
3		講義・発表	メジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第2形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行はI-V-VI-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第2形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第2形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
4		講義・発表	第4週ではメジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。学生はメジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なI-IV-VI-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚える。2.ダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
5		講義・発表	学生はメジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第1形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-VI-IV-I-II-V	1.メジャースケールの第1形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第1形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
6		講義・発表	第6週ではメジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。学生はメジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なii-vi-V-iii-IV-V-Iの進行で行う。	1.メジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
7		講義・発表	学生はメジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第3形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-vi-I-ii-V I-V-ii-I-IV-V	1.メジャースケールの第3形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第3形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
8		講義・発表	第8週ではメジャースケールの第3形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。学生はメジャースケールの第3形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なii-vi-V-iii-IV-V-Iの進行で行う。	1.メジャースケールの第3形に含まれるアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
9		講義・発表	学生はメジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第5形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-IV-ii-I-V	1.メジャースケールの第5形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第5形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
10		講義・発表	第10週ではメジャースケールの第5形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。学生はメジャースケールの第5形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なii-vi-V-iii-IV-V-Iの進行で行う。	1.メジャースケールの第5形に含まれるアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
11		講義・発表	第11週ではトライアドのアルペジオとそれらをノンダイアトニックコードに用いる方法に焦点を当てる。	1.アルペジオの概要について。	
12		講義・発表	メジャースケール第4形に内在する7thを含むダイアトニックコードのアルペジオについて解説をする。この項目ではコードの3度から弾き始めるダイアトニックのアルペジオの重なりについての説明から始まる代理コードの応用編も含まれる。	1.メジャースケールの第4形に含まれる7thを入れたアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
13		講義・発表	メジャースケール第2形に内在する7thを含むダイアトニックコードのアルペジオについて解説をする。	1.メジャースケールの第2形に含まれる7thを入れたアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習				反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】					
Guitar Melodic Concept1					

科目名	expression A (1) (Bass Lineconcept (1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、指板の構造とフレット上の音名を全て把握出来るようになること。 2、メジャースケールの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 3、コードの概念を理解し、構成音を把握しながら演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	右手左手のフォームを確認し、スムーズで正しいフォームの演奏法を習得する。	現在の自分フォームとベースラインコンセプト教科書にて記載されている正しいフォームとの違いを理解する
2		講義・演習	譜面上の音楽記号、指板上全ポジションの音名の理解を深める。	全ポジションの音名を理解し演奏できるようにする
3		講義・演習	コードネームとコード進行について理解を深めルートのみで演奏する	コード進行のパターンを調べ音楽記号を使って採譜する。
4		講義・演習	弦の移動幅によっての度数や音程について、メジャースケールの構造について理解し、演奏出来る。	ベースラインコンセプト教科書にて書かれている8音階(C.D.E.F.G.A.B)でメジャースケールの演奏できるようにする
5		講義・演習	#keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての#key(C# D# F# G# A#)のメジャースケールを弾けるようにする
6		講義・演習	b keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての b key(D b E b G b A b B b)のメジャースケールを弾けるようにする
7		講義・演習	弾き始めの場所の重要性と各フレーズに対しての運指の理解する。	メジャースケールをメトロノームBPM60～120まで8分音符練習。
8		講義・演習	全てのメジャースケールが弾けるか、また配布した譜面の音楽記号を間違えずにルートだけで弾きこなせることができるかの演習する。	12音階全てのメジャースケールを弾けるようにする
9		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールについての理論的解釈する。	ベースラインコンセプト教科書に記載してあるメジャーペンタトニックスケールを演奏できるようにする
10		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールの5つのポジションを理解しフレーズを演奏出来るようになる	配布した資料のコード進行に対してメジャーペンタトニックスケールのベースラインを作成する
11		講義・演習	コードトライアドの構成音とメジャーキーのダイアトニックトライアドを理解し、演奏出来るようにする	Cダイアトニックトライアドを全て弾けるように復習構成音を理解すること
12		講義・演習	セブンスコードの構成音とメジャーキーのダイアトニックセブンスコードを理解し、演奏出来るようにする ナチュラルマイナースケールとメジャースケールの違いを理解する。 Cナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする	全てのキーのダイアトニックセブンスコードを演奏できるようにする 全keyのナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする
13		講義・演習	ナチュラルマイナースケールの構造を理解し、フレーズを作成する。 全てのキーのナチュラルマイナー演奏できる。	配布した資料のコード進行に対してマイナーペンタトニックスケールのベースラインを作成する 12音階全てのナチュラルマイナーの復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (1) (Drum Control theory (1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	①ルーディメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につけることで 本来の太鼓の音色を表現することや演奏したい音符の長さを演奏できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールを利用して演奏できる	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールの復習
2		演習	フットワークを利用して演奏できる	フットワークを利用して実演してみる。
3		演習	アクセレーションコントロール16分音符、3種類ができる	アクセレーションコントロール16分音符、3種類の復習
4		演習	アクセレーションコントロール3連符、2種類ができる	アクセレーションコントロール3連符、2種類の復習
5		演習	ダブルストロークロールができる	ダブルストロークロールの復習
6		演習	5.7.9.11.13ストロークロールができる	5.7.9.11.13ストロークロールの復習
7		演習	バズ、バズ5、バズ7ができる	バズ、バズ5、バズ7の復習
8		演習	シングルパラディドルができる	シングルパラディドルの復習
9		演習	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルができる	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルの復習
10		演習	フラム、フラムアクセント16分&3連符を演奏できる	フラム、フラムアクセント16分&3連符の復習
11		演習	フラムパラディドルができる	フラムパラディドルの復習
12		演習	フラムタップ、ラタマキューができる	フラムタップ、ラタマキューの復習
13		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てることができる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (1) (Keyboard Playing technique (1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	織原洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	教室内使用機材の説明。結線の説明。 ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックギングフレーズとソロ。	Key=Aでバックギングパターンとソロを練習。
2		演習	ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックギングフレーズとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
3		講義・演習	オルガンを使用する16系Funk。バックギングパターンとソロ。	Key=Eでバックギングパターンとソロの練習。ワークシート。
4		演習	オルガンを使用する16系Funk。バックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
5		講義・演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
6		演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
7		テスト	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		講義・演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックギングパターンとソロ。	ワークシート、左記項目の練習。
9		演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
10		講義・演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。 バックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
11		演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。バックギングパターンと	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
12		講義・演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
13		演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックギングパターンとソロ。 当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。 前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。口
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (2) (Guitar Melodic concept (2))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を学ぶ	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を復習する。
2		演習	基礎テクニック:フィンガートレーニングができるようになる。	基礎テクニック:フィンガートレーニングを復習する。。
3		演習	基礎テクニック:ベンディングができるようになる。	基礎テクニック:ベンディングを復習する。
4		演習	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフができるようになる。	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフを復習する。
5		演習	基礎テクニック:トリル奏法ができるようになる。	基礎テクニック:トリル奏法がを復習する。
6		演習	基礎テクニック:レガート奏法ができるようになる。	基礎テクニック:レガート奏法を復習する。
7		演習	フレットの指の運び方ができるようになる。	フレットの指の運び方を復習する。
8		演習	楽譜の読み方ができるようになる。	楽譜の読み方を復習する。
9		演習	コードとは？ができるようになる。	コードとは？を復習する。
10		演習	コードトーン:メジャー編ができるようになる。	コードトーン:メジャー編を復習する。
11		演習	コードトーン:マイナー編ができるようになる。	コードトーン:マイナー編を復習する。
12		演習	インターバルができるようになる。 メジャースケールができるようになる。	インターバルがを復習する。 メジャースケールを復習する。
13		演習	マイナースケールができるようになる。 初見演奏してみる	マイナースケールがを復習する。 初見演奏を復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (2) (Bass Lineconcept (2))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、メジャースケール、マイナースケールとそのダイアトニックコードの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 2、ブルースのハーモニーとそのコード進行、フレージングを理解し、演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイナーキーのダイアトニックコードトライアドについて理解。	マイナーセブンスのダイアトニックを自身で調べる
2		講義・演習	ブルーノートスケールの構造を理解し、そのフレージングを演奏出来る。	ペンタニックとブルーノートスケールの関係性を調べ演奏できるようにする
3		講義・演習	ペンタニックスケールとブルーノートの関係性について	コードトーンに対してのベースラインを考え、譜面に起こしてくる
4		講義・演習	様々なブルースのコード進行を理解し、演奏出来る。	ブルースのコード進行にブルーノートスケール ペンタニックスケールでベースラインを作成する
5		講義・演習	メジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、 ブルーノートスケールのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
6		試験	課題曲に合わせメジャー、ナチュラルマイナー、ペンタニック、ブルーノートス ケールを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーキーに 対応できるようにする
7		講義・演習	メジャーキーのモードスケールを理解し、全てのキーで演奏出来る。	リディアンスケール、ミクソリディアンスケール理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成
8		講義・演習	メジャーキーのコード進行に対して、アルペジオとモードスケールを 設定し、演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しメジャーモードスケールとの関 係性を理解。
9		講義・演習	分数コードの成り立ちを理解分数コードの機能を把握	分数コードが入ってないコード進行を実際に分数コードにしてみても自分なりに アレンジを加えて採譜して講師に提出
10		講義・演習	ベースラインの成り立ちとアプローチノートについて理解し、 演奏出来る。	アプローチノートとモードスケールの関係性の理解を深める
11		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	コード進行に対してのベースラインとクロマチックの 関係性の理解を深める
12		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。 マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、演奏出来る	ドリアン、フリジアン、ロクリアンスケールの理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成 課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しマイナーモードスケールとの関係性を理解。
13		講義・演習	メジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、アプローチノートのおさらい 課題曲に合わせメジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、アプローチノートを使ってベースラインを作成	試験に向けて課題曲の練習 12音階全てのメジャー・マイナーモードスケールを弾けるようにする
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (2) (Drum Control theory (2))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。 ドラムの音色のコントロールをすると共に全体のバランスを考えた演奏をすることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	演習・ラフ、4.5ストロークラフができる。	演習・ラフ、4.5ストロークラフを復習。
2		演習	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグができる。	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグを復習。。
3		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①を復習。
4		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
5		演習	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキュー	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキュー、トリプルラタマキューを復習。
6		演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
7		演習	演習・チェンジアップができる。	演習・チェンジアップを復習。
8		演習	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
9		演習	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
10		演習	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションができる。	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションを復習。
11		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
12		演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
13		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (2) (Keyboard Playing technique (2))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンセサイザーの波形の説明。サイン波またはスクエア波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	左記フレーズを数パターン作成する。
2		演習	スクエア波の音色を使って、Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	授業内で学んだ内容の反復練習。
3		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	左記フレーズを数パターン作成する。
4		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。
5		演習	シンセベースのグルーブ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	左記フレーズの練習。
6		演習	シンセベースのグルーブ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
7		演習	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワーク
8		演習	シンセプラスによるコードバックキング。	左記フレーズの練習。
9		演習	シンセプラスの代表的な楽曲から幾つかのバックキングパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
10		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
11		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
12		演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレピ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
13		演習	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。 後期の重要ポイントと復習	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (1) (Vocal Performance (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス＆ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる 歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。 歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する 共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (1) (Guitar Harmonic concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏の基礎を習得する。コードの仕組みを理論的に学びながら、さまざまなヴォイシングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	CAGEDシステムについて。トライアドのEフォームとAフォームの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
2		講義・演習	インターバル、ダイアトニックコードについて理解する。	五線譜を使いダイアトニックを書き出して復習。
3		講義・演習	トライアドのCフォームとGフォームの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
4		講義・演習	トライアドのDフォームの練習。	課題プリントのコードワーク練習。トライアドのCAGED5種類の復習。
5		講義・演習	dimトライアドコードの練習。ドミナントモーションについて。	Reviewのコード進行に合わせて実技練習。
6		講義・演習	augトライアドコードの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
7		講義・演習	sus4コードの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
8		講義・演習	sus2コードの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
9		講義・演習	4和音によるコードヴォイシング。基本となるEフォームとAフォームの練習。	枯葉、All Of Meなどのスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
10		講義・演習	特定のKeyのダイアトニックコードをEブロックの中で練習。	課題プリントのコードワーク練習。
11		講義・演習	特定のKeyのダイアトニックコードをAブロックの中で練習。	課題プリントのコードワーク練習。
12		講義・演習	特定のKeyのダイアトニックコードをCブロックの中で練習。	課題プリントのコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲に合わせて自分でコードワークを考える。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	expression B (1) (Bass Groove analyze (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。ビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	ベースという楽器を通して各音符の長さや、記号、楽譜の読みとり、曲調など音楽表現に関する体感を積み重ねることにより、リズムと楽器の成り立ちを習得する事を目的とする。 各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に、タイム感と音感の重要性を理解し、扱う楽曲に対する理解力が上がることで、JazzやRock、POPSなどジャンル毎にフレーズや、ビート、音色などの使いわけができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ベースパートの重要性とスタンダード・ミディ・ファイルの取扱方法を説明する。	次の授業では音符の長さ(4分、8分、タイ記号)を取り扱うためのクリックを使用した譜面の音符の長さの練習
2		講義	4分、8分休符とタイとを使用した時の違いを説明する。	次の授業では休符(4分、8分)休符の演奏を扱うため、クリックを使用し演奏の中に休符を入れる練習
3		演習	4分、8分休符の体得する。(エクササイズ)	次の授業では音楽記号を使った内容の為スタックカート記号、テヌート記号を読み取れるようにしておく。
4		講義	スタックカート、テヌート記号のグルーヴ的な違いを説明する。	次の授業ではスタックカートやテヌートを楽譜から読み取り実際の演奏に交える練習をしておく
5		演習	スタックカートやテヌートを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	スタックカート、テヌート、シンコペーションを見分けられるようにしておく
6		講義	アクセントの意味、シンコペーション記号の意味合いを説明する。	通常の4分、8分の演奏の中にアクセント、シンコペーションを使用し通常の4分8分の演奏との違いを理解する
7		演習	アクセント、シンコペーションを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	通常のベーシックリズムパターンに音程を加えて演奏するパターンを理解しておく
8		講義	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを説明する。	通常のベーシックリズムパターンに音程を交えて演奏した際にリズムがずれないように練習
9		演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次の授業から8ビートに入るので今まで授業でやってきた内容を確認し、苦手意識がある分野を復習する
10		講義	基本的な8ビートパターンとパターンの作り方を説明する。 基本的な8ビートのパターンを体得する。(エクササイズ)	8ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。 16ビートの授業に入るので16分音符をクリックに合わせて弾けるように練習
11		演習	基本的な16ビートパターンとパターンの作り方を説明する。 基本的な16ビートのパターンを体得する。(エクササイズ)	16ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。 前期を通して行った授業の中から長所を伸ばし、短所を埋められるように練習
12		講義	前期に学んだ音楽記号やリズムを元に自分で楽譜を作ってみる。	自分が好きなフレーズやパターンを譜面に書く練習
13		演習	12週目に作った楽譜を自分で演奏してみる。	譜面を読解する力を養う。 また譜面を見ながらベースを弾けるようにする練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶出版教科書、Standard Midi File、Standard Midi Player				

科目名	expression B (1) (Drum Groove Making (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルに臨む為の基礎や、テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグループに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の理解。8ビートとその歴史的背景を知る	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の復習
2		演習	8ビートにおけるキックバリエーションの実践。スネアバックビートに関する理解。	8ビートにおけるキックバリエーションの復習
3		演習	8ビートにおける4Wayトレーニングの実践。メトロノームを使用した練習の紹介。	8ビートにおける4Wayトレーニングの復習
4		演習	ハイハットワークの実践。ドラムの役割(アンサンブルスタンス)を理解する。	ハイハットワークの実践。の復習
5		演習	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの実践。ゴーストモーションに関する考察。	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの復習
6		演習	セットオーケストレーション:移動モーションの理解と実践。フィルインに関する考察。	セットオーケストレーション:移動モーションの理解の復習
7		演習	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの復習
8		演習	Bブロックフォームでのグルーヴメイクのチェック;パルスイメージの理解と実践。	Bブロックフォームでのグルーヴメイクの復習
9		演習	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの復習
10		演習	Cブロックフォームでのグルーヴメイク;マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施	Cブロックフォームでのグルーヴメイク;マイナスイオン音源の復習
11		演習	シャッフルビートの習得。リズム構造の理解とフィールの実践。	シャッフルビートの習得の復習
12		演習	トラディショナルスタイルの理解と実践。ハネ方のニュアンスに関する考察。 3連符に包括されたシャッフルフィールの実践。ゴーストノートのコントロール。	トラディショナルスタイルの理解と実践の復習 3連符に包括されたシャッフルフィールの実践の復習
13		演習	各ブロックフォームを織り交ぜた応用 8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	各ブロックフォームを織り交ぜた復習 8ビート、16ビート、シャッフルビートの復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶出版オリジナルテキスト「DRUM GROOVE MAKING」				

科目名	expression B (1) (Keyboard Harmonic concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	基礎的な演奏方法やコード理論を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、ハーモニーの重要性を理解し、楽曲理解力、表現力の向上を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基礎練習とキーボードの使用法を理解し実演する。	基礎練習とキーボードの使用法を復習する。
2		演習	基本のコードとコードネームを理解し実演する。	基本のコードとコードネームを復習する。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを復習する。
4		演習	ペントニック、リフを理解し実演する。	ペントニック、リフを復習する。
5		演習	ペントニック、リフを理解し実演する。	ペントニック、リフを復習する。
6		演習	Bluesを理解し実演する。	Bluesを復習する。
7		講義	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習する。
8		講義	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習する。
9		講義	マイナースケールを理解し実演する。	マイナースケールを復習する。
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する。	Bossa Nova Dm7-G7を復習する。
11		演習	Blues Em riffを理解し実演する。	Blues Em riffを復習する。
12		演習	いろいろな音色を理解し実演する。 ヴォイシングやレンジによる変化を理解し実演する。	いろいろな音色を復習する。 ヴォイシングやレンジによる変化を復習する。
13		演習	強弱による変化を理解し実演する。 前期の重要ポイントと復習	強弱による変化を復習する。 前期の重要ポイントと復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (2) (Vocal Performance (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス＆ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる 歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。 歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
13		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンス	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (2) (Guitar Harmonic concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏の基礎を習得する。コードの仕組みを理論的に学びながら、さまざまなヴォイシングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	特定のKeyのダイアトニックコードをGブロックの中で練習。	課題プリントのコードワーク練習。
2		講義・演習	特定のKeyのダイアトニックコードをDブロックの中で練習。	課題プリントのコードワーク練習。
3		講義・演習	dim7コードの練習。	課題プリントのコードワーク練習。
4		講義・演習	サブドミナントマイナー、セカンダリードミナントについて。	学んだ内容の理解を深めるために復習。
5		講義・演習	〇7(b5)、〇7(#5)の練習。	課題プリントのコードワーク練習。
6		講義・演習	JazzBluesの課題に合わせてバックイング練習。	課題プリントのコードワーク練習。
7		講義・演習	〇mM7の練習。	課題プリントのコードワーク練習。
8		講義・演習	〇7sus4の練習。	課題プリントのコードワーク練習。
9		講義・演習	〇M7(#5)の練習。メロディックマイナーのダイアトニックについて。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
10		講義・演習	〇6の練習。クリシェ進行について。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
11		講義・演習	〇m6の練習。マイナーブルースでバックイング練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
12		講義・演習	9thを含んだテンションコードの練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲に合わせて自分でコードワークを考える。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	expression B (2) (Bass Groove analyze (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取った上で、実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%(後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる) 理解力40%(後期に学んだ内容を説明することができる)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィルのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		講義	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		講義	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		講義	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		講義	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		講義	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。 ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習 次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
13		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (2) (Drum Groove Making (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。 1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル) 振り返りとしての総復習
13		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。 1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習 1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (2) (Keyboard Harmonic concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバックングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。 エフェクト紹介1の変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。 エフェクト紹介1を理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。 後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2を理解し復習。 後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (1) (Guitar Playing technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースistだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	モーダルとコードダルを理解し演奏する。 自由演奏を理解し演奏する。	モーダルとコードダルを復習する。 自由演奏を復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (1) (Bass Playing technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとブルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。 ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習 次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
13		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (1) (Percussion (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。1 & 3 合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・楽器紹介・授業の内容説明	
2		講義・演習	カホン＆ジャンベ8・16ビート1	カホンの基本的な叩き方を復習する
3		講義・演習	カホン＆ジャンベ8・16ビート2	カホンの基本的な叩き方を復習する
4		講義・演習	シンコペーション	メトロノームに合わせてアクセントの位置を確認しながら復習する
5		講義・演習	フィルイン	配布プリントを復習
6		講義・演習	3連系リズム	配布プリントを復習
7		講義・演習	ファンク＆フュージョン1	配布プリントを復習
8		講義・演習	ファンク＆フュージョン2	配布プリントを復習
9		講義・演習	アフリカンリズム	配布プリントを復習
10		講義・演習	ソロ(ソロとリズムの違い)	どうやったらソロになるか実際に録音してみて確認してみる
11		講義・演習	フィンガーテクニック1	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
12		講義・演習	フィンガーテクニック2	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
13		演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	expression C (1) (Keyboard Playing technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
2		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働き説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)またコードに割り当てるスケール例を説明できる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)説明できる。説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) (Guitar Playing technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースistだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
12		演習・テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
13		演習・テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) (Bass Playing technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースストだけにはない活動の気づきが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
12		演習・テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の解明
13		演習・テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) (Percussion (2))	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。2 & 4の合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンガベーシックテクニック1	スラップの手の形を復習する
2		講義・演習	コンガベーシックテクニック2	授業で行った内容を反復復習する
3		講義・演習	ティンバレス1	ティンバレス基本リズムを復習する
4		講義・演習	ティンバレス2(ソロ含む)	ティンバレス基本リズムを復習する
5		講義・演習	シェイカー	どの角度でアクセントをつけるか復習する
6		講義・演習	タンバリン	叩き方のバリエーションを復習する
7		講義・演習	パーカッションアンサンブル1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
8		講義・演習	パーカッションアンサンブル2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
9		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
10		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
11		講義・演習	総復習1	1年やった内容を振り返り復習しましょう
12		講義・演習	総復習2	1年やった内容を振り返り復習しましょう
13		演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	expression C (2) (Keyboard Playing technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) またコードに割り当てるスケール例を説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践 してみる。
4		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践 してみる。
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明できるようになる。	Secondary Dominantの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践 してみる。
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践 してみる。
8		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	テストと復習 学んだ項目の総復習	全てのunitを確認し実演してみる。 学んだ項目の総復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Vocal Band Ensemble (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一郎 相澤 ななみ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICSのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
13		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。 テストと復習	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。1・12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習を行う。各ジャンルの課題曲以外の曲も聞く。準備復習研究時間として週4時間行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Guitar Band Ensemble Style (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
	学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック) スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル) スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる 主要四和音 (トリニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について復習する 主要四和音 (トリニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・トリニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニック・トリニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Bass Band Ensemble Style (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川 俊平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2014年よりvivid undressとして活動、夏木マリや矢沢永吉等のライブサポートや、様々なアーティストのレコーディングでも活躍している。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペントニックコードについて演奏できる	ペントニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる メジャー・マイナースケールについて演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる メジャー・マイナースケールについて演奏できる
13		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Drum Band Ensemble Style (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる シンコペーションを習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する シンコペーションを習得し演奏を復習する
13		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Keyboard Band Ensemble Style (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オンシレーターの説明学び演奏できる。	オンシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー)基にしたフレーズの習得について演奏できる 主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	コードトーンを復習する。(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる 主要四和音を復習する。(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる
13		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・コードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・コードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Vocal Band Ensemble (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 相澤 ななみ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。 映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業を進めていく 事の理解を深めていく。 バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
13		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。 テストと復習	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。 1~13をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Guitar Band Ensemble Style (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習 内容	コードアルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める。						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏し、アドリブで演奏できるか。また理論的な解釈で説明できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。	
3		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
4		演習	演奏における音楽理論 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
5		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
6		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
7		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
8		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
9		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
10		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	
11		演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。	
12		演習	コードの分解と着地について説明できる。 アドリブ/モーダルとコードアルについて説明できる。	コードの分解と着地を復習する。 アドリブ/モーダルとコードアルを復習する。	
13		演習	リズムックメソッドについて説明できる。 講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	リズムックメソッドを復習する。 講師の提示する楽譜を復習する。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A (2) (Bass Band Ensemble Style (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川 俊平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2014年よりvivid undressとして活動、夏木マリや矢沢永吉等のライブサポートや、様々なアーティストのレコーディングでも活躍している。						
授業の学習 内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。						
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。
3		演習	裏拍を理解し、グルーヴを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーヴを復習する。
4		演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。
5		演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。
6		演習	ペントニックコードを習得し演奏する。	ペントニックコードを復習する。
7		演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。
8		演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。
9		演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。
10		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
11		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
12		演習	DAWの利点を習得し演奏する。 DAWを習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。 DAWを復習する。
13		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Drum Band Ensemble Style (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。						
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
12		演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
13		演習	LIVEを想定してのステージングを習得し演奏する。 DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	LIVEを想定してのステージングを復習する。 DAWを使用してのドラミングを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Keyboard Band Ensemble Style (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。						
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボーイングを変更しよりプロフェッショナルな演奏力をつける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。
3		演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。
4		演習	dim.augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim.augコードの成り立ちを復習する。
5		演習	ダイアトニックスケールを習得し演奏する。	ダイアトニックスケールを復習する。
6		演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを復習する。
7		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
8		演習	1oct solo+バックギングを習得し演奏する。	1oct solo+バックギングを復習する。
9		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
10		演習	2oct solo+バックギングを習得し演奏する。	2oct solo+バックギングを復習する。
11		演習	midiを使つての演奏 課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使つての演奏 課題曲の楽譜作成を復習する。
12		演習	1oct soloを習得し演奏する。 1oct solo+バックギングを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。 1oct solo+バックギングを復習する。
13		演習	2oct soloを習得し演奏する。 2oct solo+バックギングを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。 2oct solo+バックギングを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ジャー ガンセン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
13		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。 テストと復習	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。 1~14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。各ジャンルの課題曲以外の曲もたくさん聞く。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ジャー ガンセン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
13		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。テストと復習	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。1~14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	i'12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keyboard Inst Ensemble Style (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keyboard Inst Ensemble Style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。 実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲をさらい、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free style (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、レベルチェック	自己紹介、レベルチェック
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。コンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、場ミリを意識したコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free style (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	作編曲法Beginners(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井丈司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	音楽業界(J-POP)での多くのヒット曲と、プロデュース/アレンジの実績を持つ。						
授業の学習内容	音楽理論を理解し、それぞれの理論に照らし合わせてコード進行を構築しながらメロディーやアレンジの作成を行う。						
到達目標	音楽理論と作、編曲の関係を理解し楽曲制作時のスピードアップを測る。ファンデーション授業の理解をさらに深め、楽曲制作に活かせるようになる。						
評価方法及び基準	1) 定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	編曲法の基本	編曲法の基本 振り返りと自習。
2		講義・演習	ドラムパートのアレンジ	ドラムパートのアレンジ 振り返りと自習。
3		講義・演習	ドラムパートのアレンジ課題の演習	ドラムパートのアレンジ課題の演習 振り返りと自習。
4		講義・演習	ベースパートのアレンジ	ベースパートのアレンジ 振り返りと自習。
5		講義・演習	ベースパートのアレンジ課題の演習	ベースパートのアレンジ課題の演習 振り返りと自習。
6		講義・演習	コードの組み立と転回形について	コードの組み立と転回形について 振り返りと自習。
7		講義・演習	コードの組み立と転回形課題の演習	コードの組み立と転回形課題の演習 振り返りと自習。
8		講義・演習	キーボードパートのアレンジ	キーボードパートのアレンジ 振り返りと自習。
9		講義・演習	キーボードパートの課題の演習	キーボードパートの課題の演習 振り返りと自習。
10		講義・演習	スケール1メジャー	スケール1メジャー 振り返りと自習。
11		講義・演習	スケール2マイナー	スケール2マイナー 振り返りと自習。
12		講義・演習	アレンジリズムパート課題1	データの管理とポートフォリオ作成
13		試験	アレンジインストゥルメント課題2	データの管理とポートフォリオ作成
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	作編曲法Beginners(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井文司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	音楽業界(J-POP)での多くのヒット曲と、プロデュース/アレンジの実績を持つ。						
授業の学習内容	音楽理論を理解し、それぞれの理論に照らし合わせてたコード進行を構築しながらメロディーやアレンジの作成を行う。						
到達目標	音楽理論と作、編曲の関係を理解し楽曲制作時のスピードアップを測る。ファンデーション授業の理解をさらに深め、楽曲制作に活かせるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ダイアトニックコードについて	ダイアトニックコードについて 振り返りと自習。
2		講義・演習	モチーフとモチーフデベロップメントについて	モチーフとモチーフデベロップメントについて 振り返りと自習。
3		講義・演習	ダイアトニックコードとメロディについて	ダイアトニックコードとメロディについて 振り返りと自習。
4		講義・演習	ケーデンスについてについて	ケーデンスについてについて 振り返りと自習。
5		講義・演習	ダイアトニックリハモニゼーションについて	ダイアトニックリハモニゼーションについて 振り返りと自習。
6		講義・演習	セカンダリードミナントについて	セカンダリードミナントについて 振り返りと自習。
7		講義・演習	エクステンデッドミナントについて	エクステンデッドミナントについて 振り返りと自習。
8		講義・演習	サブファイブセブンについて	サブファイブセブンについて 振り返りと自習。
9		講義・演習	その他のダイアトニックローレティッドについて	その他のダイアトニックローレティッドについて 振り返りと自習。
10		講義・演習	マイナーキーハーモニーについて	マイナーキーハーモニーについて 振り返りと自習。
11		講義・演習	ディミニッシュ7コードについて	ディミニッシュ7コードについて 振り返りと自習。
12		講義・演習	アヴェイラブルノートスケールについて	アヴェイラブルノートスケールについて 振り返りと自習。
13		試験	課題曲提出	データの管理とポートフォリオ作成
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM(1) (DTM Basic 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 屋間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	石井：2012年よりアイドル、アニメ主題歌など、数多く楽曲提供をしている 高橋：有限会社SUPA LOVE所属。アイドルなどに数多く楽曲提供をしている						
授業の学習 内容	①プロ作曲家/プロデューサーに必要なPC知識・DAW操作・DTM全般の基礎知識を理解する ③「創造を形にできる技術・知識を持って0から1の楽しさを実感してほしい」						
到達目標	Logic Proの基礎を理解し、打ち込み、レコーディングを用いて作曲の基礎が出来るようになる。						
評価方法と基準	試験に行う指定楽曲の耳コピ制作=60%、授業評価(出席率込み)=40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	①Mac&Windows説明、Mac立ち上げ サウンド設定、様々なDAW説明、自宅制作について ②他者に説明できる	用語や操作の復習
2		講義と実習	①Logicの立ち上げ、プロジェクトの設定、 トラックの作り方基礎名称の説明、作曲 ②他者に説明できる	用語や操作の復習
3		講義と実習	①DAW上でのドラムの打ち込み、 MIDIキーボードを使ったステップ入力 ②②他者に説明できる	ドラムの打ち込み練習
4		講義と実習	前回の授業の復習・実習	ドラムの打ち込み練習
5		講義と実習	①DAW上での音符の見え方 ディビジョンの理解 ②他者に説明できる	ピアノロール等のDTMに必要な知識学習
6		講義と実習	前回の授業の復習・実習	ピアノロール等のDTMに必要な知識学習
7		講義と実習	①DAW上でのコードの仕組み、 ディグリー ネームや コードネーム ②他者に説明できる	DAW上での和音や進行の学習
8		講義と実習	前回の授業の復習・実習	DAW上での和音や進行の学習
9		講義と実習	①メロディの種類・コードの当て方楽曲構成の考え方 ②他者に説明できる	メロディや構成の学習
10		講義と実習	前回の授業の復習・実習	メロディや構成の学習
11		講義と実習	①基礎的な楽曲の耳コピ ②簡単なコード譜の作成	DAWによる耳コピによる学習
12		テスト	テスト	課題楽曲の耳コピをする学習
13		講義と実習	長期休み明けの活動報告・学習	作曲段階のデモを制作
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			いろんな音楽にふれあい作曲の基礎が身につく環境にいること	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM(1) (DTM Advance(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	横野康平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	10年以上現役でJ-pop K-pop ライブ制作や映像音楽の作曲編曲活動を行なっている。 講師活動は8年以上。						
授業の学習 内容	既存曲から講師が仕事で役に立ちそうな実践的なDTMテクニックを抜粋し、配布された教材を使い各自真似をしてサウンドデザインや打ち込みのテクニックを習得する。						
到達目標	題材のジャンルや楽曲制作テクニックを学び自身のオリジナル作品に反映させる。						
評価方法と基準	実技試験 50% 筆記試験 0% 課題 50%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	各DAW Strings Expression,Articulationの入力方法とコツを習得	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
2		講義・演習	Dance Pop曲を使ってオートメーションを使えるようになる。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
3		講義・演習	トロピカルハウスの作り方を習得	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
4		講義・演習	HIPHOPなどのコードがループしている楽曲構成を素早く作れるようになる	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
5		講義・演習	LofiBeatのサウンドデザインを学んで作れるようになる。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
6		講義・演習	vocal素材を使ってVocalCutUpの習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
7		講義・演習	Dollphinボイスの作り方を学んで作れるようになる。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
8		講義・演習	生楽器とシンセのレイヤーを使えるようになる	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
9		講義・演習	FutureBassの作り方 (シンセサイザー編)	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
10		講義・演習	FutureBassの作り方 (生楽器編)	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
11		講義・演習	Dubstep (GlowlBass) の作り方	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
12		講義・演習	Dubstep (ColourBass) の作り方	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく	
13		演習	1コーラスラフデモ制作テスト	配布データなどを使って制作アイデアを用意し	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			いろんな音楽にふれあい作曲の基礎が身につく環境にいること		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DTM(2) DTM Basic (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	石井：2012年よりアイドル、アニメ主題歌など、数多く楽曲提供をしている 高橋：有限会社SUPA LOVE所属。アイドルなどに数多く楽曲提供をしている						
授業の学習 内容	①プロ作曲家/プロデューサーに必要なPC知識・DAW操作・DTM全般の基礎知識を理解する ③「創造を形にできる技術・知識を持って0から1の楽しさを実感してほしい」						
到達目標	Logic Proの基礎を理解し、打ち込み、レコーディングを用いて作曲の基礎が出来るようになる。						
評価方法と基準	1年を通して学んだ成果物の提出=60%、授業評価(出席率込み)=40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	①Logic付属音源以外の音源を使用する 機材の定番を知る・編曲とは ②他者に説明できる	用語や操作の復習	
2		講義・演習	①編曲における各楽器の役割(生楽器) ②他者に説明できる	用語や操作の復習	
3		講義・演習	前回の授業の復習・実習	用語や操作の復習	
4		講義・演習	①シンセサイザー基礎②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
5		講義・演習	①シンセサイザー応用 ②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
6		講義・演習	①ボーカル録音の学習②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
7		講義・演習	①ボーカル録音の実習 ②実務において使用できる	編曲に必要な知識	
8		講義・演習	①オーディオ編集の学習②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
9		講義・演習	①オーディオ編集の実習 ②実務において使用できる	編曲に必要な知識	
10		講義・演習	①ボリュームの学習②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
11		講義・演習	①プラグイン EQの学習 ②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
12		テスト	①プラグイン コンプの学習②他者に説明できる	編曲に必要な知識	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			DTMについて理解する		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DTM(2) (DTM Advance(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	横野康平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	10年以上現役でJ-pop K-pop ライブ制作や映像音楽の作曲編曲活動を行なっている。 講師活動は8年以上。						
授業の学習 内容	既存曲から講師が仕事で役に立ちそうな実践的なDTMテクニックを抜粋し、配布された教材を使い各自真似をしてサウンドデザインや打ち込みのテクニックを習得する。						
到達目標	題材のジャンルや楽曲制作テクニックを学び自身のオリジナル作品に反映させる。						
評価方法と基準	実技試験 50% 筆記試験 0% 課題 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Electroswingの作り方を習得する。1	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
2		講義・演習	Electroswingの作り方を習得する。2	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
3		講義・演習	2Stepの作り方を学んで作れるようになる。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
4		講義・演習	ガールズクラッシュ楽曲を用いて力強いPopsを習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
5		講義・演習	SlapBassやエレピがカウンターに入ってくFutureBass楽曲を用いてダンスブレイクの習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
6		講義・演習	アラビックスケールなどを用いてEDM調のTrapを習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
7		講義・演習	KpopDeepHouseの作り方を習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
8		講義・演習	NewJackSwing曲を習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
9		講義・演習	音ゲーに使われているトランス曲を使って早いフレーズを学 び作れるようになる。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
10		講義・演習	スクリーチシンセの作り方を習得する。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
11		講義・演習	FMシンセを使って簡単なBassHouseを習得。	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
12		講義・演習	FMシンセを使ってSkrillexのようなサウンドを出せるようになる。(Supersonic)	各自使用しているDawのマニュアルや公式サイトやネット記事を読んでおく
13		演習	1コーラスラフデモ制作テスト	配布データなどを使って制作アイデアを用意し
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			いろんな音楽にふれあい作曲の基礎が身につく環境にいること	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP Vocal Performance(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンス＆ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	設定した目標をレポートで提出
2		演習	アイソレーションができる(首、肩)	次の講義までに復習を要する
3		演習	アイソレーションができる(胸、腰、膝)	次の講義までに復習を要する
4		演習	ツーステップ、グレイプバインが出来る	次の講義までに復習を要する
5		演習	スライド、ボックスが出来る	次の講義までに復習を要する
6		演習	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
7		演習	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
8		演習	シャムロックが出来る	次の講義までに復習を要する
9		演習	リズムに合わせて簡単なステップを組み合わせることができる	次の講義までに復習を要する
10		演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	試験
13		演習	試験総括(改善点を知る)	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	K-POP Vocal Performance(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	クラブステップ、ポップコーンができる	次の講義までに復習を要する
2		演習	リズムを意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		演習	C-Walk、New Jack Swingができる	次の講義までに復習を要する
5		演習	POPのアイソレーションができる	次の講義までに復習を要する
6		演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(HIT,POP)	次の講義までに復習を要する
7		演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを整える	次の講義までに復習を要する
8		演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(STOP,POP)	次の講義までに復習を要する
9		演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えること	次の講義までに復習を要する
10		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンス	次の講義までに復習を要する
11		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	試験
13		演習	試験総括(改善点を知る)	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Dance for K-POP (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	井口菜摘
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーを務めるだけでなく、自身もアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	基本的なダンスに必要なストレッチ、アイソレーション、筋力トレーニングそしてK-POPのカバーダンス(課題の曲に関しては前週の レッスンまでに発表)						
到達目標	授業内で振付が理解出来ている。1人でも堂々と複数の前で踊り、表現が出来る。						
評価方法と基準	課題の振り付けがしっかり覚えられている。ただ振付を覚えるだけではなく曲の雰囲気や歌詞などを理解して目を引くパフォーマンス が出来ているかどうか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→OMG/New Jeans サビ部分
2		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→OMG/New Jeans イン트로～サビ前
3		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Say my name/BOYS PLANET サビ部分
4		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Say my name/BOYS PLANET イン트로～サビ前
5		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Love me like this/NMIXX サビ部分
6		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Love me like this/NMIXX イン트로～サビ前
7		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
8		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
9		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
10		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
11		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
12		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
13		演習	試験	試験で踊る曲の練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Dance for K-POP (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	井口菜摘
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーを務めるだけでなく、自身もアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	基本的なダンスに必要なストレッチ、アイソレーション、筋力トレーニングそしてK-POPのカバーダンス(課題の曲に関しては前週の レッスンまでに発表)						
到達目標	授業内で振付が理解出来ている。1人でも堂々と複数の前で踊り、表現が出来る。						
評価方法と基準	課題の振り付けがしっかり覚えられている。ただ振付を覚えるだけではなく曲の雰囲気や歌詞などを理解して目を引くパフォーマンス が出来ているかどうか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
2		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
3		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
4		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
5		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
6		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
7		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
8		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
9		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
10		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
11		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
12		演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
13		演習	試験	試験で踊る曲の練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Dance for singer (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	①歌を歌う時のリズム感を養う ②音楽が関連してくる時全般 ③ただ歌うだけでなく見てる人の目も楽しませられるようになる ④基本的にリズムトレーニングが中心						
到達目標	音の取り方を自在に操り音遊びが出来るようになる						
評価方法と基準	実技による採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえ	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アイソレーションなどの基礎	授業内容を自主練習
4		講義・演習	基礎的な体の動かし方	授業内容を自主練習
5		講義・演習	基礎的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
6		講義・演習	複合的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
7		講義・演習	簡単な振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	簡単な振付にリズム感を入れる	授業内容を自主練習
9		講義・演習	全体のリズムを合わせるトレーニング	授業内容を自主練習
10		講義・演習	バリエーションを増やした振付	授業内容を自主練習
11		講義・演習	前週のトレーニング	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Dance for singer (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	①歌を歌う時のリズム感を養う ②音楽が関連してくる時全般 ③ただ歌うだけでなく見てる人の目も楽しませられるようになる ④基本的にリズムトレーニングが中心						
到達目標	音の取り方を自在に操り音遊びが出来ようになる						
評価方法と基準	実技による採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アイソレーションなどの基礎	授業内容を自主練習
4		講義・演習	基礎的な体の動かし方	授業内容を自主練習
5		講義・演習	基礎的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
6		講義・演習	複合的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
7		講義・演習	簡単な振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	簡単な振付にリズム感を入れる	授業内容を自主練習
9		講義・演習	全体のリズムを合わせるトレーニング	授業内容を自主練習
10		講義・演習	バリエーションを増やした振付	授業内容を自主練習
11		講義・演習	前週のトレーニング	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスBasic 1(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神山 清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル”Spinnin’ Records”傘下”Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性に合わせた指導プラン構築のため、カウンセリングを兼ねた面談を実施。	
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方(頭出しの仕方)、BPMの説明、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX講習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明。2Master Tempo(BPMの計算方法)。3フェーダーのみでMIX。4Lowカットを使ってMIX。5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	MIX講習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明。2Master Tempo(BPMの計算方法)。3フェーダーのみでMIX。4Lowカットを使ってMIX。5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	RecordBox講習 ② ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント。5インポート(解析)が終わった楽曲。6iTunesと連携したSync Manager	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義	DJの歴史について	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	60分セットを作る④ A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスBasic 1(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神山 清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin’ Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽曲の入手方法 代表的なダウンロードサイト(DJ City)より入手する。 楽曲の管理について ・音楽ファイルの種類の説明 ・BPM ・ビットレート	時間外学習として復習90分取り組む
2		演習	曲と曲を正確に合わせる① サンプルCDを使って、キック、BPM、ビッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる③ サンプルCDを使って、キック、BPM、ビッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲の構成についての説明 ・講師がカテゴライズした楽曲から生徒がセレクト ・つなぐポイントを理論的に説明(小節、Rなど) サンプルCDからジャンルごとに10曲セレクト	時間外学習として別ジャンルより10曲追加セレクト
5		演習	MIX講座② 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明、2Master Tempo(BPMの計算方法)、3フェーダーのみでMIX、4Lowカットを使ってMIX、5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	30分セットを作る Season1 A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	30分セットを作る Season2 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season3 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	RecordBox講習 ① ・CD,USB,PCDJとの違いについて、RekordBoxを使うメリットについて 1ファイルマネジメント、2最初のセットアップ(各種モードの説明)、3プレイリストの作成	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	トライアルレッスン	時間外学習として復習90分取り組む
11		演習	60分セットを作る① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る③ A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	Back to Backについて ・共同プレイおよびパフォーマンスにおけるシステムの理解と実践。	時間外学習として復習90分取り組む
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスBasic 2(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神山 清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin’ Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験：100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性に合わせた指導プラン構築のため、カウンセリングを兼ねた面談を実施。	
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方(演出しの仕方)、BPMの説明、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX演習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明。2Master Tempo(BPMの計算方法)。3フェーダーのみでMIX。4Lowカットを使ってMIX。5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	MIX演習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明。2Master Tempo(BPMの計算方法)。3フェーダーのみでMIX。4Lowカットを使ってMIX。5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	RecordBox演習 ② ・CD/USB/PCDJとの違いについて。RecordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント。5インポート(解析)が終わった楽曲。6iTunesと連携したSync Manager	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義	DJの歴史について	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	60分セットを作る④ A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスBasic 2(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神山 清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル”Spinnin’ Records”傘下”Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽曲の入手方法 代表的なダウンロードサイト(DJ City)より入手する。 楽曲の管理について ・音楽ファイルの種類の説明 ・BPM ・ビートレート	時間外学習として復習90分取り組む
2		演習	曲と曲を正確に合わせる① サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる③ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲の構成についての説明 講師がカテゴライズした楽曲から生徒がセレクト。つなぐポイントを理論的に説明(小節、尺など)。サンプルCDからジャンルごとに10曲セレクト	時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX講習② 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明、2Master Tempo(BPMの計算方法)。3フェーダーのみでMIX。4Lowカットを使ってMIX。5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	30分セットを作る Season1 A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	30分セットを作る Season2 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season3 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	RecordBox講習 ① ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 1ファイルマネジメント。2最初のセットアップ(各種モードの説明)。3プレイリストの作成	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	トライアルレッスン	時間外学習として復習90分取り組む
11		演習	60分セットを作る① A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る③ A MIXポイントを学びながらセットを作る。B 選曲の仕方を学びながらセットを作る。C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	Back to Backについて ・共同プレイおよびパフォーマンスにおけるシステムの理解と実践。	時間外学習として復習90分取り組む
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (3) (Guitar Melodic concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナー・メジャーペンタトニック)スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(メジャースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(インターバル)スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる(コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる 主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について復習する 主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		演習	コード進行の解析演奏できる(ダイアトニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析(ダイアトニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (3) (Bass Lineconcept(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	楽曲におけるベースラインの構築の仕方を、コード、スケール、リズムパターン、ジャンルによる特徴などの視点から学び、音楽的理解を深める。音の選び方によって変化するハーモニーや、グルーヴの違いなども体感し、コード進行を読み解き、楽曲に合ったベースラインを考えられるようにする。						
到達目標	・様々なベースラインの分析、演奏をできるようになる。 ・代理コードの概念を理解し、正しくフレージング出来るようになる。 ・コード進行を見て、適切なアルペジオとスケールの選択を出来るようになる。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 演奏スキル 20点 3. 理解度 20点 4. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	授業で学んだ内容について復習。Ch27,28の予習。
2		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。	授業で学んだ内容について復習。Ch29,30の予習。
3		講義・演習	マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、演奏出来る。	授業で学んだ内容について復習。Ch31の予習。
4		講義・演習	8ビートのベースライン、主にリズムアプローチについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch32の予習。
5		講義・演習	代表的な8ビートのベースラインを元に分析、移調できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch33の予習。
6		講義・演習	8ビートのパターンをモチーフにアーティキュレーションについて学び、表現力を上げる。	授業で学んだ内容について復習。Ch34の予習。
7		講義・演習	16ビートのベースライン、主にリズムアプローチについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch35の予習。
8		講義・演習	16ビートのベースリフを元に分析、移調できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch36の予習。
9		講義・演習	シャッフルのベースラインを取り上げ、リズムパターンによる違いを体得する。	授業で学んだ内容について復習。Ch37の予習。
10		講義・演習	Swing16thの様々なベースラインを演奏。クリシェのラインについても学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch38の予習。
11		講義・演習	4/4以外の拍子(3/4や6/8)のベースラインを学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch39の予習。
12		講義・演習	奇数拍子(7/4や5/8など)のベースラインを学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch40の予習。
13		講義・演習	サンバ、ボサノバの代表的なベースラインについて学ぶ。	前期で学んだ内容について復習。Ch41の予習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			様々な曲のベースラインをコピー～分析することで理解を深める。楽器を使っでの反復練習もする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶出版教科書				

科目名	expression A (3) (Drum Control theory (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。 1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル) 振り返りとしての総復習
13		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。 1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習 1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (3) (Keyboard Playing technique (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての变化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバックングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。 エフェクト紹介1の変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。 エフェクト紹介1を理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。 後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2を理解し復習。 後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (4) (Guitar Melodic concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 大志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期のおさらい	前期のおさらい
2		演習	マイナースケール	マイナースケール
3		演習	ハーモニックマイナースケール	ハーモニックマイナースケール
4		演習	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ
5		演習	メロディックマイナー	メロディックマイナー
6		演習	スパニッシュスケール	スパニッシュスケール
7		演習	スパニッシュジプシースケール	スパニッシュジプシースケール
8		演習	ジプシースケール	ジプシースケール
9		演習	アドリブ: モーダル	アドリブ: モーダル
10		演習	アドリブ: コーダル	アドリブ: コーダル
11		演習	アドリブ: コードの分解	アドリブ: コードの分解
12		演習	ハーモニックメソッド メロディックメソッド	ハーモニックメソッド メロディックメソッド
13		演習	リズムメソッド 自由演奏	リズムメソッド 次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (4) (Bass Lineconcept(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	楽曲におけるベースラインの構築の仕方を、コード、スケール、リズムパターン、ジャンルによる特徴などの視点から学び、音楽的理解を深める。音の選び方によって変化するハーモニーや、グルーヴの違いなども体感し、コード進行を読み解き、楽曲に合ったベースラインを考えられるようにする。						
到達目標	・様々なベースラインの分析、演奏をできるようになる。 ・代理コードの概念を理解し、正しくフレーズング出来るようになる。 ・コード進行を見て、適切なアルペジオとスケールの選択を出来るようになる。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 演奏スキル 20点 3. 理解度 20点 4. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義,演習	レゲエの代表的なベースラインについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch42の予習。
2		講義,演習	マンボなどの代表的なベースラインについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch43の予習。
3		講義,演習	テンション(エクステンション)ノートについての説明、演習をする。	授業で学んだ内容について復習。Ch44の予習。
4		講義,演習	テンション(オルタレーション)ノートについての説明、演習をする。	授業で学んだ内容について復習。Ch45の予習。
5		講義,演習	テンションノートの表記と、使用できるスケールについて説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch46の予習。
6		講義,演習	代理コード(ダイアトニック、セカンダリードミナント)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch47の予習。
7		講義,演習	代理コード(裏コード、ディミニッシュコード)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch48の予習。
8		講義,演習	代理コード(モーダルインターチェンジ、サブドミナントマイナー)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch49の予習。
9		講義,演習	ウォーキングベース(コードトーン、アプローチノート)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch50の予習。
10		講義,演習	ウォーキングベース(スケールトーン、転回形)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch51の予習。
11		講義,演習	ウォーキングベース(ヴォイスリーディング、3rdと7thの関係)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch52の予習。
12		講義,演習	構成のあるコード進行において、ベースラインを分析、演奏できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch52の進行で自分なりのベースラインを考える。
13		講義,演習	構成のあるコード進行において、自分なりのベースラインを構築できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch57からの練習曲にも取り組む。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			様々な曲のベースラインをコピー～分析することで理解を深める。楽器を使っでの反復練習もする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶出版教科書				

科目名	expression A (4) (Drum Control theory (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、 Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルや演奏技術の向上を目指し反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression A (4) (Keyboard Playing technique (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音(トリニッド・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる コード進行の解析演奏できる(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	主要四和音を復習する。(トリニッド・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる コード進行の解析演奏を復習する。(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (3) (Vocal Performance (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野 恭平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス & ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニクを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識したより高度な歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識したより高度な歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
13		演習	試験と復習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	expression B (3) (Guitar Harmonic concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏のより高度な技術を習得する。コード進行に合わせた最適なテンションコードを理解し、さまざまなヴォイスシングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。ハーモナイズ術を習得する。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。コードメロディーのハーモナイズ術を身につけ、ソロギターのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	○7(b9)、○7(#9)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
2		講義・演習	○9sus4の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
3		講義・演習	オルタードドミナントコードについて。テンションコードの組み合わせを試す。	学んだ内容の理解を深めるために復習。
4		講義・演習	テンションコードを使ったJazzBlues/バックイング練習。	ジャズブルースのスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
5		講義・演習	○7(b5)、○7(#5)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
6		講義・演習	JazzBluesの課題に合わせてバックイング練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
7		講義・演習	add9コードの練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
8		講義・演習	○69の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
9		講義・演習	○m69の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
10		講義・演習	○7(#11)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
11		講義・演習	○M7(#11)、○m7(11)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
12		講義・演習	13thコードの練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲に合わせて自分でコードワークを考え、実践する。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	expression B (3) (Bass Groove analyze (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペントニックコードについて演奏できる	ペントニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる メジャー・マイナースケールについて演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる メジャー・マイナースケールについて演奏できる
13		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (3) (Drum Groove Making (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明 できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習 する
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる シンコペーションを習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する シンコペーションを習得し演奏を復習する
13		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (3) (Keyboard Harmonic concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オンシレーターの説明学び演奏できる。	オンシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる コード進行の解析演奏できる(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	主要四和音を復習する。(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる コード進行の解析演奏を復習する。(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (4) (Vocal Performance (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野 恭平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス & ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、より高度なソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しより高度なパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	より高度な共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	より高度な共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	より高度な共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	より高度な共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
13		演習	試験総括(改善点を知る)	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	expression B (4) (Guitar Harmonic concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏のより高度な技術を習得する。コード進行に合わせた最適なテンションコードを理解し、さまざまなヴォイスシングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。ハーモナイズ術を習得する。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。コードメロディーのハーモナイズ術を身につけ、ソロギターのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	〇7(13,b9)、〇7(13,#9)の練習。コンディミスケールについて。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
2		講義・演習	"Blue In Green"のアナライズとバックイング練習。	"Blue In Green"のコードワーク練習。
3		講義・演習	"Blue In Green"のコードメロディーハーモナイズ。	"Blue In Green"のソロギターアレンジ復習。
4		講義・演習	ドロップ2ヴォイスシングの習得。	スタンダード曲に合わせてドロップヴォイスシングでコードワーク練習。
5		講義・演習	ドロップ3ヴォイスシングの習得。	スタンダード曲に合わせてドロップヴォイスシングでコードワーク練習。
6		講義・演習	課題曲1のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
7		講義・演習	課題曲1のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
8		講義・演習	課題曲2のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
9		講義・演習	課題曲2のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
10		講義・演習	課題曲3のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
11		講義・演習	課題曲3のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
12		講義・演習	課題曲4のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲4のハーモナイズを考えてソロギターアレンジを作る。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	expression B (4) (Bass groove analyze (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	現代音楽におけるリズム、音色、各パートの成り立ちの抽出が主な内容で、その種類と手法、また発展や大元を体感することをテーマとする。ジャンルの違いを把握し表現をするためにビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダードミディ・ファイルを使用し授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	各ジャンルにおける歴史や背景を把握し過去と現代の各ジャンルの違いや価値観を理解することを目指す。 自身がそのジャンルの音楽に適切だと思うフレーズを選択できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
2		講義	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
11		演習	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
12		講義	前期、後期合わせ自身が良かったと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良かったと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
13		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (4) (Drum Groove Making (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽で頻出する難易度の高いリズムの抽出と分析が主な内容となる。幾つかの代表的な奏法を実践し、特化した技術、知識を学ぶ。ラテン音楽やジャズにも触れ総合的に音楽の理解を深めていく。						
到達目標	世界共通のリズムを習得する事を目的とし、各種練習の消化や自発的研究活動の延長線上において、様々な音楽ジャンルの要素を昇華して主体的にリズムの構築が出来る能力を身につける事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解
2		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング
3		演習	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の運動性が複雑化した応用	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の運動性が複雑化した応用
4		演習	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出
5		演習	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践
6		演習	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践
7		演習	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践
8		演習	JB系のファンク - Chapter55(テキスト)	JB系のファンク - Chapter55(テキスト)
9		演習	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56
10		演習	ストレート・フィールのファンク - Chapter57	ストレート・フィールのファンク - Chapter57
11		演習	バウンス・フィールのファンク - Chapter58 6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59	バウンス・フィールのファンク - Chapter58 6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59
12		演習	ラテン・フィールのファンク - Chapter60 ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用	ラテン・フィールのファンク - Chapter60 ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用
13		演習	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを 織り交ぜた応用	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを 織り交ぜた応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B (4) (Keyboard Harmonic concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	1年時、2年前期に習得した実技や理論をさらに発展させて現場でも使えるようにしていく。 より複雑なコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	循環コードの説明4-5-6-3	循環コードの説明4-5-6-3
2		演習	前週からのテンションノート1	前週からのテンションノート1
3		演習	テンションノート2	テンションノート2
4		演習	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法
5		演習	ペントニック、リフ	ペントニック、リフ
6		演習	Rock でのriff	Rock でのriff
7		演習	ブルースのコード進行	ブルースのコード進行
8		講義	テンションノートを使用したソロワーク	テンションノートを使用したソロワーク
9		講義	楽譜の読み方(現場へ出るための再確認)	楽譜の読み方(現場へ出るための再確認)
10		演習	オンコードの説明	オンコードの説明
11		演習	ディミニッシュ、オーギュメントの説明	ディミニッシュ、オーギュメントの説明
12		演習	ロクリアンの説明 エフェクト紹介1	ロクリアンの説明 エフェクト紹介1
13		講義	エフェクト紹介2 後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2 後期の重要ポイントと復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (3) (Guitar Playing technique(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ギター演奏時に必要な演奏方法を学び、幅広いジャンルでのギター演奏に対応できる技術を習得する。その演奏方法が特徴的な楽曲の一部を紹介し、音感や譜面の読み書きにも慣れていけるようにする。						
到達目標	基礎～ハイレベルなギター演奏ができるようになり、楽曲に対して最適なアプローチを自分で考えられるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	パワーコード(8ビート、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
2		講義・演習	コードストローク(8ビート)	授業内容の復習、他の授業への応用
3		講義・演習	アルペジオ(8分音符)	授業内容の復習、他の授業への応用
4		講義・演習	カッティング(右手、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
5		講義・演習	ギターソロ(基本的なニュアンス)	授業内容の復習、他の授業への応用
6		講義・演習	パワーコード(16分音符、メタル系)	授業内容の復習、他の授業への応用
7		講義・演習	コードストローク(16ビート、アクセント)	授業内容の復習、他の授業への応用
8		講義・演習	アルペジオ(16分音符、フィンガーピッキング)	授業内容の復習、他の授業への応用
9		講義・演習	カッティング(～BPM140、アクセント)	授業内容の復習、他の授業への応用
10		講義・演習	オクターブ奏法(ポジション、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
11		講義・演習	ギターソロ(ニュアンスのバリエーション)	授業内容の復習、他の授業への応用
12		講義・演習	特殊奏法(スクラッチ、ハーモニクス)	授業内容の復習、他の授業への応用
13		講義・演習	アンプ、エフェクターを使った音作り	授業内容の復習、他の授業への応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習、反復練習、音楽をたくさん聴く	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、譜面				

科目名	expression C (3) (Bass Playing technique(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースistだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
2		講義	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム&ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム&ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
11		演習	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。 フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)
12		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
13		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽と復習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (3) (Percussion (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。1 & 3 合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・楽器紹介・授業の内容説明	
2		講義・演習	カホン＆ジャンベ8・16ビート1	カホンの基本的な叩き方を復習する
3		講義・演習	カホン＆ジャンベ8・16ビート2	カホンの基本的な叩き方を復習する
4		講義・演習	シンコペーション	メトロノームに合わせてアクセントの位置を確認しながら復習する
5		講義・演習	フィルイン	配布プリントを復習
6		講義・演習	3連系リズム	配布プリントを復習
7		講義・演習	ファンク＆フュージョン1	配布プリントを復習
8		講義・演習	ファンク＆フュージョン2	配布プリントを復習
9		講義・演習	アフリカンリズム	配布プリントを復習
10		講義・演習	ソロ(ソロとリズムの違い)	どうやったらソロになるか実際に録音してみて確認してみる
11		講義・演習	フィンガーテクニック1	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
12		講義・演習	フィンガーテクニック2	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
13		演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	expression C (3) (Keyboard Playing technique(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースストだけにはない活動の気づきが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施 リズム構造の理解とフィールの実践。	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施 リズム構造の理解とフィールの実践。
12		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用 学期末試験実施	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用 学期末試験実施
13		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の説明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (4) (Guitar Playing technique(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校講師を務めている。						
授業の学習 内容	ギター演奏時に必要な演奏方法を学び、幅広いジャンルでのギター演奏に対応できる技術を習得する。その演奏方法が特徴的な楽曲の一部を紹介し、音感や譜面の読み書きにも慣れていけるようにする。						
到達目標	基礎～ハイレベルなギター演奏ができるようになり、楽曲に対して最適なアプローチを自分で考えられるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ギターリフ(ローポジション)	授業内容の復習、他の授業への応用
2		講義・演習	ギターリフ(ハイポジション)	授業内容の復習、他の授業への応用
3		講義・演習	ギターソロ(フルピッキング)	授業内容の復習、他の授業への応用
4		講義・演習	ギターソロ(レガート)	授業内容の復習、他の授業への応用
5		講義・演習	ギターソロ(スウィープ、エコノミー)	授業内容の復習、他の授業への応用
6		講義・演習	ギターソロ(タッピング)	授業内容の復習、他の授業への応用
7		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
8		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
9		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
10		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
11		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
12		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
13		講義・演習	アンプ、エフェクターを使った音作り	授業内容の復習、他の授業への応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習、反復練習、音楽をたくさん聴く	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、譜面				

科目名	expression C (3) (Bass Playing technique(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベースストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナー・メジャーペンタニック)スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(メジャースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(インターバル)スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる(コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ビッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ビッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる
12		演習	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・トニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニック・トニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) (Percussion (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。2 & 4の合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンガベーシックテクニック1	スラップの手の形を復習する
2		講義・演習	コンガベーシックテクニック2	授業で行った内容を反復復習する
3		講義・演習	ティンバレス1	ティンバレス基本リズムを復習する
4		講義・演習	ティンバレス2(ソロ含む)	ティンバレス基本リズムを復習する
5		講義・演習	シェイカー	どの角度でアクセントをつけるか復習する
6		講義・演習	タンバリン	叩き方のバリエーションを復習する
7		講義・演習	パーカッションアンサンブル1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
8		講義・演習	パーカッションアンサンブル2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
9		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
10		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
11		講義・演習	総復習1	1年やった内容を振り返り復習しましょう
12		講義・演習	総復習2	1年やった内容を振り返り復習しましょう
13		演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	expression C (4) (Keyboard Playing technique(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーストだけにはない活動の気づきが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施 リズム構造の理解とフィールの実践。	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施 リズム構造の理解とフィールの実践。
12		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用 学期末試験実施	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用 学期末試験実施
13		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の説明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1999年に結成したロックバンド「Do As Infinity」ではギターを担当。その他ミサイルイノベーション、THE JUGGLERのメンバーとして活躍。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1999年に結成したロックバンド「Do As Infinity」ではギターを担当。その他ミサイルイノベーション、THE JUGGLERのメンバーとして活躍。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数人バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。 PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
12		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。 最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲Unit1のアンサンブル。2010年代のFUNKから入り、FUNKの楽しさを知る。	Unit1の復習。FUNKの名曲を調べる
2		演習	課題曲Unit1のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit2の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		演習	課題曲Unit2のアンサンブル。難易度の低いFUNK曲でシンプルなノリを重視する。	Unit2の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		演習	課題曲Unit2のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回Unit3の課題曲の予習をする。
5		演習	課題曲Unit3のアンサンブル。ディスコミュージックを課題曲にダンスミュージックの楽しさを知る。	Unit3の復習。FUNKの名曲を調べ、視聴する。
6		演習	課題曲Unit3のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit4の課題曲の予習
7		演習	課題曲Unit4のアンサンブル。1980年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit4の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
8		演習	課題曲Unit4のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit5の課題曲の予習
9		演習	課題曲Unit5のアンサンブル。1970年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit5の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		演習	課題曲Unit5のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit6の課題曲の予習
11		演習	課題曲Unit6のアンサンブル。難易度の高いFUNK曲にチャレンジする。	Unit6の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
12		演習	課題曲Unit6のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	中間発表に向けて練習する。
13		演習・試験	前期のまとめとして中間発表を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Funk Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	卒業制作展までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲Unit7のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit7の復習。FUNKの名曲を調べる
2		演習	課題曲Unit7のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit7の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		演習	課題曲Unit8のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit8の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		演習	課題曲Unit8のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回卒業制作展の課題曲の予習をする。
5		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
6		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
7		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
8		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	次回Unit9の課題曲の予習
9		演習	課題曲Unit9のアンサンブル。卒業制作展課題曲とは異なる楽曲に取り組む。	Unit9の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展データ取り12/19に向けて練習する
11		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
12		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
13		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	R&Bアンサンブルについての概要説明。 Unit0課題曲のアンサンブルを実践。	授業で学んだ内容について復習。Unit1楽曲の予習。
2		演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
3		演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	Unit1楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit2楽曲の予習。
4		演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
5		演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	Unit2楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit3楽曲の予習。
6		演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
7		演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	Unit3楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit4楽曲の予習。
8		演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
9		演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	Unit4楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit5楽曲の予習。
10		演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
11		演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	Unit5楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit6楽曲の予習。
12		演習	中間発表に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。バンドや発表曲の練習をする。
13		演習	中間発表で本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう体調管理を含めた自己管理の大切さを学び、本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源、歌詞、譜面資料(Teamsにて共有)				

科目名	R&B Ensemble(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	中間発表に向けてのリハーサル、練習を行う。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。 バンドや発表曲の練習をする。
2		演習	中間発表に参加し、本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう、体調管理を含めた自己管理の大切さを学ぶ。本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
3		演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
4		演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(1)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。次週楽曲の予習。
5		演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
6		演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(2)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Voオーディションに向け準備。
7		演習	WeAre楽曲、ボーカルオーディションを行う。	自分の担当曲以外にも歌唱、演奏できるように準備しておく。
8		演習	Motownメドレー、曲サイズ、アレンジの確認。	1曲あたりが短いので、各曲のイメージをよりはっきりと掴んでおく。
9		演習	Motownメドレー、曲間、転換の確認。	メドレー内での転換がスムーズにいくように、音作りや立ち位置、マイクの受け渡しなど明確にしておく。
10		演習	Motownメドレー、振付、衣装などステージングの確認。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際のアーティスト達の映像や写真を見て、動きや立ち姿、衣装の研究をする。
11		演習	Xmasソングのアンサンブルを実践する。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際に通してみての改善点などを発見し、ブラッシュアップする。次週曲の予習。
12		演習	卒業・進級制作に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	Xmasヒットソングのレパートリーを増やす。 Merry Christmas!
13		演習	卒業・進級制作で本番経験を積む。	衣装、転換など含めた最終RH。良いイメージを固めて本番に向けて各々仕上げ&体調管理を徹底する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源、歌詞、譜面資料(Teamsにて共有)				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keybord Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keybord Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。 ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。 実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲をさらい、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Free style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、レベルチェック	自己紹介、レベルチェック
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。コンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、場ミリを意識したコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Hip Hop Dance (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、 またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践確認動画でチェックする。
3		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
4		演習	タイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
5		演習	タイムストップを学び実践できる	タイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
6		演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
7		演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
8		演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
9		演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
10		演習	アニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
11		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
12		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
13		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Hip Hop Dance (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、 またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
2		演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
3		演習	ティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
4		演習	ティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
5		演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
6		演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
7		演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
8		演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
9		演習	ブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
10		演習	ブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
11		演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
12		演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
13		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Jazz Dance (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	アイソレーションを覚えて実践できる	アイソレーションを覚えて実践、動画でチェックする。
2		演習	身体の使い方を学び理解し実践できる	身体の使い方を学び理解し実践、動画でチェックする。
3		演習	アームスの正しいポジションを学び理解し実践できる	アームスの正しいポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。
5		演習	バレエポジションを学び理解し実践できる	バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
6		演習	身体の軸の作り方を学び理解し実践できる	身体の軸の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		演習	様々なターンを学び理解し実践できる	様々なターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		演習	ターンを学び理解し実践できる	ターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
9		演習	様々なジャンプを学び理解し実践できる	様々なジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		演習	ジャンプを学び理解し実践できる	ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
11		演習	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践できる クロスフロアを学び理解し実践できる	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践、動画でチェックする。 クロスフロアを学び理解し実践、動画でチェックする。
12		演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる バレエポジションを学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。 バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
13		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なサンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Jazz Dance (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	リズムをしっかりと感じ、個性豊かな創造性を身につける。 プロの世界でも通用するようなダンススキルを習得できることを 目的とする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを学び理解し実践できる	アイソレーションを学び理解し実践、動画でチェックする。
2		講義・演習	テクニックを学び理解し実践できる	テクニックを学び理解し実践、動画でチェックする。
3		講義・演習	ターン、ジャンプを学び理解し実践できる	ターン、ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		講義・演習	振り付けを学び理解し実践できる	振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
5		講義・演習	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践、動画でチェックする。
6		講義・演習	振りの中での表現力を学び理解し実践できる	振りの中での表現力を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		講義・演習	振り覚えのスピードを学び理解し実践できる	振り覚えのスピードを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		講義・演習	振りの中での表情を学び理解し実践できる	振りの中での表情を学び理解し実践、動画でチェックする。
9		講義・演習	より高度な振りを学び理解し実践できる	より高度な振りを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		講義・演習	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践できる	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践、動画でチェックする。
11		講義・演習	テクニックの向上練習を学び理解し実践できる 集中力の作り方を学び理解し実践できる	テクニックの向上練習を学び理解し実践、動画でチェックする。 集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
12		講義・演習	オーディションでのメンタルを学び理解し実践できる 集中力の作り方を学び理解し実践できる	オーディションでのメンタルを学び理解し実践、動画でチェックする。 集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
13		講義・演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTMAAdvance(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	湯汲哲也
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、としみつ(東海オンエア)、リクヲ(アバンティーズ)、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWを使って色々な楽器パートの特徴的なフレーズや表現方法を習得する事が主な内容で、音楽理論を交えながら編曲の手法を教えていく。						
到達目標	色々な楽器パートの特徴的なフレーズや表現方法を習得してクオリティーの高い音源が作れるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						
授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	各パートのペロシティーとロケーションの設定方法を学んでドラムのノリを打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のドラムキットの音を出してみる			
2		講義・演習	各パートのペロシティーとロケーションの設定方法を学んでドラムのノリを打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のドラムキットの音を出してみる			
3		講義・演習	ペロシティー、デュレーション、ロケーションの設定方法を学んでグループがあるBassを打ち込めるようになる。	属の色々な種類のベースの音を出してみる			
4		講義・演習	演奏表現(ハンマリング・プリングオフ、グリッサンド、スライド)のプログラミングを学んでグループがあるBassを打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のベースの音を出してみる			
5		講義・演習	演奏表現(コード・ストローク、フラッツング・ミュート、ガッツィンク)のプログラミングを学んでギターのバックキンを打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のギターの音を出してみる			
6		講義・演習	ジャンル別の両手を使ってのバックキンを学んでピアノのバックキスが打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のピアノの音を出してみる			
7		講義・演習	各ストリングス系楽器の(バイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス)の調弦および音域を学んでストリングスの種類と特徴を理解し、打ち込みができるようになる。	付属の色々な種類のストリングスの音を出してみる			
8		講義・演習	各ストリングス系楽器の(バイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス)のフレーズを学んでストリングスの種類と特徴を理解し、打ち込みができるようになる。	付属の色々な種類のストリングスの音を出してみる			
9		講義・演習	ピッチベンド、エクスプレッションを使いながらホーンのフレーズを学んでホーンのフレーズを打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のホーンの音を出してみる			
10		講義・演習	良い音を録るレコーディング方法を学んでレコーディングができるようになる。	マイクを使って色々な音を録音してみる			
11		講義・演習	波形編集を学んで録ったオーディオをEDITできるようになる。	録った音に色々なエフェクトを掛けてみる			
12		講義・演習	EQやCompを使用して音の変化を学んで各楽器の帯域が分かるようになる。	録った音に色々なエフェクトを掛けてみる			
13		講義・演習	トラックインサードとマスターチャンネルに刺すプラグインを学んで、自分の楽曲に必要なプラグインか不要なプラグインかが判断できるようになる。	録った音に色々なエフェクトを掛けてみる			
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
準備学習 時間外学習			DAW付属の音源やプラグインを全てチェックしておく。				
【使用教科書・教材・参考書】							
オリジナル							

科目名	DTMAAdvance(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	湯汲 哲也
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、としみつ(東海オンエア)、リクラ(アバンティーズ)、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWを使って色々な楽器パートの特徴的なフレーズや表現方法を習得する事が主な内容で、音楽理論を交えながら編曲の手法を教えていく。						
到達目標	色々な楽器パートの特徴的なフレーズや表現方法を習得してクオリティーの高い音源が作れるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムの各パートの音色のバランスを学んでプリセットを使わずドラムセットを組めるようになる。	付属の色々な種類のドラムキットの音をEDITしてみる
2		講義・演習	ドラムの各パートの音色のバランスを学んでプリセットを使わずドラムセットを組めるようになる。	付属の色々な種類のドラムキットの音をEDITしてみる
3		講義・演習	演奏表現(ハンマリング・プリングオフ、グリッサンド、スライド)のプログラミングを学んでBassの感情表現を打ち込みでできるようになる。	付属の色々な種類のベースの音をEDITしてみる
4		講義・演習	根音以外の音を使って動きのあるベースを学んで上下の立体感をベースで作れるようになる。	付属の色々な種類のベースの音をEDITしてみる
5		講義・演習	演奏表現(チョーキング、ビブラート、スライドハンマリング・プリングオフ)のプログラミングを学んでギターの感情表現を打ち込みでできるようになる。	付属の色々な種類のギターの音をEDITしてみる
6		講義・演習	エレピのボイシング(オープンボイシング)を学んで少ない音数でも美しい広がりがあるボイシングを奏でられるようになる。	付属の色々な種類のエレピの音を出してみる
7		講義・演習	弦楽4重奏を学んでストリングスのフレーズを作れるようになる。	付属の色々な種類のストリングスの音をEDITしてみる
8		講義・演習	弦楽4重奏を学んでストリングスで裏メロを作れるようになる。	付属の色々な種類のストリングスの音をEDITしてみる
9		講義・演習	ホーンの奏法(シェイク、アダック・ベント、ホルタメント、タンギング/スラー、フォール・オフ/アップ、ドロップ)を学んでホーンの奏法を打ち込めるようになる。	付属の色々な種類のホーンの音をEDITしてみる
10		講義・演習	EQ、コンプ、ディエッサーを用いたボーカル専用処理を学んでボーカルを綺麗に処理する事ができるようになる。	ボーカルに色々なエフェクトをかけてみる
11		講義・演習	EQ、コンプ、ディエッサーを用いたボーカル専用処理を学んでボーカルを綺麗に処理する事ができるようになる。	ボーカルに色々なエフェクトをかけてみる
12		講義・演習	ポリウムオートメーションを使いグルーブを学んでグルーブを感じられるMixができるようになる。	トラックに色々なオートメーションを使ってアレンジを試みる
13		講義・演習	ポリウムオートメーションを使いグルーブを学んでグルーブを感じられるMixができるようになる。	トラックに色々なオートメーションを使ってアレンジを試みる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			DAW付属の音源やプラグインを全てチェックしておく。	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル				

科目名	サウンドメイキング 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	サウンドエンジニアから見る音楽ビジネスの説明と音楽のあり方と表現の仕方①	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	サウンドエンジニアから見る音楽ビジネスの説明と音楽のあり方と表現の仕方②	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	Consolenの使い方① 基礎。ミキシング理論①	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	Consolenの使い方② 基礎。ミキシング理論②	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	Consolenの使い方③ 基礎。ミキシング理論③	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	Consolenの使い方④ 基礎。ミキシング理論④	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方1。	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方2。	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方3。	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方4。	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方5。	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方6。	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		試験	ミキシングの応用技術を活かしたプリプロ提出楽曲のリミックス作品提出	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	サウンドメイキング 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方8。	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方9。	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方10。	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方11。	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方12。	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方13。	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方14。	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方15。	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方16。	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方17。	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方18。	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方19。	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		試験	ミキシングの応用技術を活かしたプリプロ提出楽曲のリミックス作品提出	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rec Advance 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120		
					8単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/声優/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる上達項目を習得する授業です。上達知識を得る事で他科目の深い理解を深められます。難しい項目満載ですが判りやすく授業をしますので頑張ってください。実技と座学で機材 & 音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解、機材の上級使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールズ)の現場レベルの使用方法習得。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年間の計画 セッティングトレーニング	1年間の計画 セッティングトレーニング 振り返りと自習。
2		演習	セッティングトレーニング	セッティングトレーニング 振り返りと自習。
3		演習	レコーディングセッティングについて	レコーディングセッティングについて 振り返りと自習。
4		演習	レコーディング演習	レコーディング演習 振り返りと自習。
5		演習	ヴォーカルピッチ修正	ヴォーカルピッチ修正 振り返りと自習。
6		演習	ミックスダウン演習	ミックスダウン演習 振り返りと自習。
7		演習	3Pバンドレコーディング演習	3Pバンドレコーディング演習 振り返りと自習。
8		演習	3Pバンドレコーディング&ミキシング	3Pバンドレコーディング&ミキシング 振り返りと自習。
9		演習	4Pバンドレコーディング	4Pバンドレコーディング 振り返りと自習。
10		演習	4Pバンドレコーディング&ミキシング	4Pバンドレコーディング&ミキシング 振り返りと自習。
11		演習	明日への扉に向けて 機材廻りの解説1	配布資料確認 MADI DANTE確認 振り返りと自習。
12		演習	明日への扉に向けて 機材廻りの解説2	システムプラン構築 フロー理解 振り返りと自習。
13		演習	総括としての演習試験	ノート復習
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	Rec Advance 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/声優/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる上達項目を習得する授業です。上達知識を得る事で他科目の深い理解を深められます。難しい項目満載ですが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解、機材の上級使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールズ)の現場レベルの使用法習得。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	明日への扉 ミックス作業 1 データ整理	明日への扉 ミックス作業 1 データ整理 振り返りと自習。
2		演習	明日への扉 ミックス作業 2 ノイズリダクション	明日への扉 ミックス作業 2 ノイズリダクション 振り返りと自習。
3		演習	明日への扉 ミックス作業 3 トリートメント	明日への扉 ミックス作業 3 トリートメント 振り返りと自習。
4		演習	明日への扉 ミックス作業 4 バランス調整	明日への扉 ミックス作業 4 バランス調整 振り返りと自習。
5		演習	5Pバンドレコーディング	5Pバンドレコーディング 振り返りと自習。
6		演習	ミックスダウン	ミックスダウン 振り返りと自習。
7		演習	明日への扉 ミックス作業 5 空間表現	明日への扉 ミックス作業 5 空間表現 振り返りと自習。
8		演習	明日への扉 ミックス作業 6 オートメーション	明日への扉 ミックス作業 6 オートメーション 振り返りと自習。
9		演習	卒業制作展代表バンドレコーディング	卒業制作展代表バンドレコーディング 振り返りと自習。
10		演習	卒業制作展代表バンドレコーディングダビング&ミキシング	卒業制作展代表バンドレコーディングダビング&ミキシング 振り返りと自習。
11		演習	サラウンドについて	サラウンドについて 振り返りと自習。
12		演習	マスタリングについて	マスタリングについて 振り返りと自習。
13		演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	K-POP Vocal performance(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野恭平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンス＆ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	レポート提出
2		演習	アイソレーションができる(首、肩)	次の講義までに復習を要する
3		演習	アイソレーションができる(胸、腰、膝)	次の講義までに復習を要する
4		演習	ツーステップ、グレイブバインが出来る	次の講義までに復習を要する
5		演習	スライド、ボックスが出来る	次の講義までに復習を要する
6		演習	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
7		演習	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
8		演習	シャムロックが出来る	次の講義までに復習を要する
9		演習	リズムに合わせて簡単なステップを組み合わせることができる	次の講義までに復習を要する
10		演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	試験
13		演習	試験総括(改善点を知る)	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	K-POP Vocal performance(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西野恭平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンス＆ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時の振付に対する体の使い方を理解する	次の講義までに復習を要する
2		演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		演習	リズム＋グループを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション)	次の講義までに復習を要する
5		演習	ボディウェイブ初級が出来る	次の講義までに復習を要する
6		演習	ボディウェイブ中級が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8		演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9		演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる	次の講義までに復習を要する
10		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
11		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	試験
13		演習	試験総括(改善点を知る)	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Dance for K-POP (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井口菜摘
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーを務めるだけでなく、自身もアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	基本的なダンスに必要なストレッチ、アイソレーション、筋力トレーニングそしてK-POPのカバーダンス(課題の曲に関しては前週のレッスンまでに発表)						
到達目標	授業内で振付が理解出来ている。1人でも堂々と複数の前で踊り、表現が出来る。						
評価方法と基準	課題の振り付けがしっかりと覚えられている。ただ振付を覚えるだけではなく曲の雰囲気や歌詞などを理解して目を引くパフォーマンスが出来ているかどうか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→OMG/New Jeans サビ部分
2		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→OMG/New Jeans イン트로～サビ前
3		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Say my name/BOYS PLANET サビ部分
4		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Say my name/BOYS PLANET イン트로～サビ前
5		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Love me like this/NMIXX サビ部分
6		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→Love me like this/NMIXX イン트로～サビ前
7		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
8		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
9		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
10		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
11		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
12		講義・演習	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(直前で発表)
13		講義・演習	試験	試験で踊る曲の練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Dance for K-POP (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井口菜摘
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーを務めるだけでなく、自身もアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	基本的なダンスに必要なストレッチ、アイソレーション、筋力トレーニングそしてK-POPのカバーダンス(課題の曲に関しては前週のレッスンまでに発表)						
到達目標	授業内で振付が理解出来ている。1人でも堂々と複数の前で踊り、表現が出来る。						
評価方法と基準	課題の振り付けがしっかりと覚えられている。ただ振付を覚えるだけではなく曲の雰囲気や歌詞などを理解して目を引くパフォーマンスが出来ているかどうか。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
2		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
3		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
4		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
5		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
6		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
7		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
8		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
9		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
10		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
11		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
12		対面授業	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、課題の振付	課題曲→未定(前授業までに発表)
13		対面授業	試験	試験で踊る曲の練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Dance for singer(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①歌を歌う時のリズム感を養う ②音楽が関連してくる時全般 ③ただ歌うだけでなく見てる人の目も楽しませられるようになる ④基本的にリズムトレーニングが中心						
到達目標	音の取り方を自在に操り音遊びが出来るようになる						
評価方法と基準	実技による採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アイソレーションなどの基礎	授業内容を自主練習
4		講義・演習	基礎的な体の動かし方	授業内容を自主練習
5		講義・演習	基礎的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
6		講義・演習	複合的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
7		講義・演習	簡単な振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	簡単な振付にリズム感を入れる	授業内容を自主練習
9		講義・演習	全体のリズムを合わせるトレーニング	授業内容を自主練習
10		講義・演習	バリエーションを増やした振付	授業内容を自主練習
11		講義・演習	前週のトレーニング	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出口
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Dance for singer(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本雄
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①歌を歌う時のリズム感を養う ②音楽が関連してくる時全般 ③ただ歌うだけでなく見てる人の目も楽しませられるようになる ④基本的にリズムトレーニングが中心						
到達目標	音の取り方を自在に操り音遊びが出来るようになる						
評価方法と基準	実技による採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アイソレーションなどの基礎	授業内容を自主練習
4		講義・演習	基礎的な体の動かし方	授業内容を自主練習
5		講義・演習	基礎的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
6		講義・演習	複合的なリズムトレーニング	授業内容を自主練習
7		講義・演習	簡単な振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	簡単な振付にリズム感を入れる	授業内容を自主練習
9		講義・演習	全体のリズムを合わせるトレーニング	授業内容を自主練習
10		講義・演習	バリエーションを増やした振付	授業内容を自主練習
11		講義・演習	前週のトレーニング	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスAdvance 1(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神山清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin’ Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	【新時代のDJのあり方について講義】	時間外学習として復習90分取り組む
2		講義・演習	【スクラッチ講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
3		講義・演習	【楽曲制作講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
4		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習①】	時間外学習として復習90分取り組む
5		講義・演習	個人面談	これまでの総復習
6		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール	時間外学習として復習90分取り組む
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】	時間外学習として復習90分取り組む
10		講義・演習	【楽曲制作講習②】 ・現時点での制作プロジェクトのフィードバック	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義・演習	【スクラッチ講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
12		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
13		講義・演習	【中間テスト】	これまでの総復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスAdvance 1(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神山清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin’ Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイクパフォーマンス講習	時間外学習として復習90分取り組む
2		講義・演習	ダンスミュージック楽曲制作のスキルアップコンサル	時間外学習として復習90分取り組む
3		講義・演習	【クラブ出演・本番(配信)】 ・銀座GHQ	これまでの総復習
4		講義・演習	【スクラッチ講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
5		講義・演習	【楽曲制作講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
6		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】	時間外学習として復習90分取り組む
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール	時間外学習として復習90分取り組む
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】	これまでの総復習
10		講義・演習	【楽曲製作講習④】	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義・演習	【スクラッチ講習④】	時間外学習として復習90分取り組む
12		講義・演習	【楽曲製作講習⑤】	時間外学習として復習90分取り組む
13		講義・演習	【期末テスト】	これまでの総復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスAdvance 2(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神山清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin’ Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	【新時代のDJのあり方について講義】	時間外学習として復習90分取り組む
2		講義・演習	【スクラッチ講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
3		講義・演習	【楽曲制作講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
4		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習①】	時間外学習として復習90分取り組む
5		講義・演習	個人面談	これまでの総復習
6		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール	時間外学習として復習90分取り組む
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】	時間外学習として復習90分取り組む
10		講義・演習	【楽曲制作講習②】 ・現時点での制作プロジェクトのフィードバック	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義・演習	【スクラッチ講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
12		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
13		講義・演習	【中間テスト】	これまでの総復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスAdvance 2(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神山清豪
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	2010年よりDJスクールを開校、東京全土に次世代のアーティストを多数輩出。また世界最大のダンスミュージックレーベル“Spinnin' Records”傘下“Oliver Heldens”のHELDEEPより日本人で初めての楽曲リリースを実現させている。						
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイクパフォーマンス講習	時間外学習として復習90分取り組む
2		講義・演習	ダンスミュージック楽曲制作のスキルアップコンサル	時間外学習として復習90分取り組む
3		講義・演習	【クラブ出演・本番(配信)】 ・銀座GHQ	これまでの総復習
4		講義・演習	【スクラッチ講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
5		講義・演習	【楽曲制作講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
6		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習③】	時間外学習として復習90分取り組む
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】	時間外学習として復習90分取り組む
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール	時間外学習として復習90分取り組む
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】	これまでの総復習
10		講義・演習	【楽曲製作講習④】	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義・演習	【スクラッチ講習④】	時間外学習として復習90分取り組む
12		講義・演習	【楽曲製作講習⑤】	時間外学習として復習90分取り組む
13		講義・演習	【期末テスト】	これまでの総復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	WEBデザイン A (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	フリーランスグラフィック・WEBデザイナー。業界歴は30年以上、講師歴20年以上						
授業の学習 内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題(Webサイト)の出来により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2		講義	html・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3		講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4		講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5		講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6		講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7		講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8		講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9		講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
10		講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11		講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
自作プリント配布(次回までの宿題用)・WIX(https://ja.wix.com/)				

科目名	WEBデザイン A (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	フリーランスグラフィック・WEBデザイナー。業界歴は30年以上、講師歴20年以上						
授業の学習 内容	アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。 実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知り、制作することが出来る。						
評価方法と基準	・アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作、授業内での記事作成の文章力の評価。 40% ・コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。Webコンテンツの制作作品を評価。60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提出
2		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4		講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5		講義	検索エンジンの引っかけ方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6		講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
7		講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
8		講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
9		講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
10		講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
11		講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
12		講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
13		講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「M-Bug WEB」 http://m.shibuya.ac.jp/				

科目名	WEBデザイン B (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	フリーランスグラフィック・WEBデザイナー。業界歴は30年以上、講師歴20年以上						
授業の学習 内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題(Webサイト)の出来により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2		講義	html・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3		講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4		講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5		講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6		講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7		講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8		講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9		講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
10		講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11		講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
自作プリント配布(次回までの宿題用)・WIX(https://ja.wix.com/)				

科目名	WEBデザイン B (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	フリーランスグラフィック・WEBデザイナー。業界歴は30年以上、講師歴20年以上						
授業の学習 内容	アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。 実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知り、制作することが出来る。						
評価方法と基準	・アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作、授業内での記事作成の文章力の評価。 40% ・コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。Webコンテンツの制作作品を評価。60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提出
2		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4		講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5		講義	検索エンジンの引っかけ方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6		講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
7		講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
8		講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
9		講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
10		講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
11		講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
12		講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
13		講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「M-Bug WEB」 http://m.shibuya.ac.jp/				

科目名	アーティストマネジメント (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手芸能事務所トップコートで長年にわたり新人発掘を担当したスペシャリストで俳優・松坂桃李などを発掘。						
授業の学習 内容	「アーティストとマネージャの関係」はケースバイケースです。お互いのキャラクターやクリエイティヴの方向性によって変わります。しかし、どのケースでも共通して言えるのは「マネージャーはアーティストにとって一番近い存在であり大事なパートナー。アーティストの運命を左右する一番身近なプロデューサーである。」ということです。それではマネージャーの実際の仕事内容とは？それを感じ、マネージャーの仕事をしてゆく上で必要な知識を学ぶことがこの授業の目的です。学生の皆さんがそれぞれの価値観、感覚で「マネージャーの仕事」を感じ取り、学生の皆さんの将来の夢を叶える土台作りをします。今後マネージャー以外にもなりたい職業が見つかる方もいらっしゃるでしょう。マネージャーの仕事、音楽業界の仕事以外に広くエンタメビジネス全般についても学生の皆さんと一緒に考えて行きます。そして、サブスク、AIなど数多くの新たなエンタメツールが生まれている現在、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからの音楽ビジネスの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	①「マネージャー」の仕事をしてゆく上で必要な知識を学ぶ ②それぞれのキャラクターを大事にしたコミュニケーション能力のスキルアップ ③それぞれのキャラクターを大事にしたクリエイティビティーのスキルアップ ④マネージャーとして必要なマネタイズ(権利周り)の知識を習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・能動的なアティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		講義	オリエンテーション	プレゼンシミュレーション
2		講義	マネージャーってどんな仕事？-1	プレゼンシミュレーション
3		講義	マネージャーってどんな仕事？-2	プレゼンシミュレーション
4		講義	マネージャー以外にどんな仕事があるの？	プレゼンシミュレーション
5		講義	SNSビジネスの現在	プレゼンシミュレーション
6		講義	ネットビジネスの現在	プレゼンシミュレーション
7		講義	ライブ配信の現在	プレゼンシミュレーション
8		講義	アーティスト紙資料を作ってみよう	プレゼンシミュレーション
9		講義	アーティストの宣伝プランを考えてみよう	プレゼンシミュレーション
10		講義	CDやダウンロードやサブスクでいくら儲かるの？-1(著作権ビジネス)	プレゼンシミュレーション
11		講義	CDやダウンロードやサブスクでいくら儲かるの？-2(著作権ビジネス)	プレゼンシミュレーション
12		講義	作詞カリキュラム	プレゼンシミュレーション
13		講義	作詞カリキュラム	プレゼンシミュレーション
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アーティストマネジメント (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手芸能事務所トップコートで長年にわたり新人発掘を担当したスペシャリストで俳優・松坂桃李などを発掘。						
授業の学習 内容	「アーティストとマネージャの関係」はケースバイケースです。お互いのキャラクターやクリエイティヴの方向性によって変わります。しかし、どのケースでも共通して言えるのは「マネージャーはアーティストにとって一番近い存在であり大事なパートナー。アーティストの運命を左右する一番身近なプロデューサーである。」ということです。それではマネージャーの実際の仕事内容とは？それを感じ、マネージャーの仕事をしてゆく上で必要な知識を学ぶことがこの授業の目的です。学生の皆さんがそれぞれの価値観、感覚で「マネージャーの仕事」を感じ取り、学生の皆さんの将来の夢を叶える土台作りをします。今後マネージャー以外にもなりたい職業が見つかる方もいらっしゃるでしょう。マネージャーの仕事、音楽業界の仕事以外に広くエンタメビジネス全般についても学生の皆さんと一緒に考えて行きます。そして、サブスク、AIなど数多くの新たなエンタメツールが生まれている現在、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからの音楽ビジネスの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	①「マネージャー」の仕事をしてゆく上で必要な知識を学ぶ ②それぞれのキャラクターを大事にしたコミュニケーション能力のスキルアップ ③それぞれのキャラクターを大事にしたクリエイティビティーのスキルアップ ④マネージャーとして必要なマネタイズ(権利周り)の知識を習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・能動的なアティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	どうしてアーティスト名やマークって世界にひとつだけなの？(登録商標)	プレゼンシミュレーション
2		講義	実際の仕事の進み方(RECORDING・ジャケット制作編)	プレゼンシミュレーション
3		講義	実際の仕事の進み方(プロモーション編)	プレゼンシミュレーション
4		講義	マナー講座	プレゼンシミュレーション
5		講義	ファンクラブビジネス	プレゼンシミュレーション
6		講義	物販ビジネス	プレゼンシミュレーション
7		講義	俳優事務所の仕事内容	プレゼンシミュレーション
8		講義	出演料の計算方法	プレゼンシミュレーション
9		講義	有料広告	プレゼンシミュレーション
10		講義	ライブ制作	プレゼンシミュレーション
11		講義	新人発掘	プレゼンシミュレーション
12		講義	ゲスト講師	プレゼンシミュレーション
13		講義	今後のエンタメビジネス	プレゼンシミュレーション
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	イベントプロデュース (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田雄貴
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	大手イベンターのキョードーからライブ、コンサート制作の道に入り、テレビ番組関連のイベントも担当。 TOKYO IDOL FESTIVAL等の大型ライブイベント、「めざましライブ」「Mステスーパーライブ」や斉藤和義ら国内外アーティストのツアー制作。2014夏のお台場新大陸も担当。						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	はじめに ～ 企画って何？	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
2		講義	企画は誰の為 を理解する	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
3		講義	会場について理解する	全国のホールを調査する
4		講義	5 W1Hを理解する	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
5		講義	イベント本番の時間的流れを理解する	モデルタイムテーブルの作成し提出
6		講義	メディアとプロモーションを理解する	メディアネットアークの調査
7		講義	ホームページとSNSを理解する	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
8		講義	マーケットについて知る	シンクタンクのレポートを確認する
9		講義	売れてる？ヒットチャートを理解する	ヒットチャート調査のリスト化
10		講義	スタッフについて知る	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
11		講義	集客するには（入場券とプレイガイド）を理解する	プレイガイドを研究しまとめたものを提出
12		講義	イベントのビジネスモデルを知る	本日の授業をもつてのレポートを800字以内で提出
13		講義	企画立案しプレゼンする	アーティスト活動調査
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT				

科目名	イベントプロデュース (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田雄貴
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	大手イベンターのキョードーからライブ、コンサート制作の道に入り、テレビ番組関連のイベントも担当。 TOKYO IDOL FESTIVAL等の大型ライブイベント、「めざましライブ」「Mステスーパーライブ」や斉藤和義ら国内外アーティストのツアー制作。2014夏のお台場新大陸も担当。						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	企画項目を整理する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
2		講義	企画書作成の準備をする・ 1	アーティストを調査しレポートとして提出
3		講義	企画書作成の準備をする・ 2	夏フェスティバルを調査しレポートとして提出
4		講義	実在のイベントをモデルに企画書化する・ 1	イベントを調査しレポートとして提出
5		講義	実在のイベントをモデルに企画書化する・ 2	モデルタイムテーブルの作成
6		講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）ホール編	全国のホールを調査してレポートとして提出
7		講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）ライブハウス編	全国のライブハウスを調査してレポートとして提出
8		講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）アリーナスタジアム編	全国のアリーナスタジアムを調査してレポートとして提出
9		講義	イベント企画の研究	オリンピックについて調査してレポートとして提出
10		講義	イベントと法規	消防申請について調査しレポートとして提出
11		講義	単体イベントとツアー	クリスマスツアーを調査しレポートとして提出
12		講義	ツアーの企画を立案する	交通インフラを調査してレポートとして提出する
13		講義	イベントのスタイルとビジネスモデル	ACPCの資料を検証しレポートとして提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT				

科目名	ファンクラブビジネス (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	これまで数多くのアーティストマネージャーを務め、様々な現場でプロデューサー、舞台監督、デザイナーとして活躍するいくつかの顔を持っているマルチ業界人。						
授業の学習 内容	ファンクラブ、音楽業界の基礎知識を学び、実習を通して即戦力となる人材育成を行うカリキュラム。 基礎知識として主に下記項目を主な学習内容とする。 ・具体的な年間行事を知り、会員数や行事を先読みして企画する力を身につける。 ・顧客情報から得られる具体的な数字を把握し分析力を身に付ける。また、個人情報を持し管理することの重要性を学ぶ。 ・サービス毎に発生する対象者の抽出に必要な条件算出を学習する。 ・アーティストとファンを繋ぐコンテンツを提供するための企画・制作に必要な基礎知識や実務を学習する。						
到達目標	・ファンクラブの業務を把握した上で、予算表を作成することができる。 ・ExcelとCSVのデータ変換ができる。継続年数、継続率の算出ができる。継続特典、FC先行券売の対象者抽出ができ、併せて新規入会者の追加データを作成することができる。 ・新規獲得や継続促進を前提とした券売スケジュールを組むことができる。 ・有客イベント現地のブースにて入会/継続受付の施策企画、運営に必要な準備ができる。						
評価方法と基準	授業毎のレポート/ワークシートによって成績を判定します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	年間運営スケジュール 年間/毎月発生する業務の流れ	レポート
2		講義	運営基盤 (1) 運営にあたり必要な基盤 (管理システム、WEB、特典ノベルティ等) について	レポート
3		講義・演習	運営基盤 (2) 月毎に発生する業務の数量の算出、対象者抽出の考え方	ワークシート提出
4		講義・演習	収支の成り立ち ファンクラブの収支の成り立ち	ワークシート提出
5		演習	ユーザー分析 CSVとエクセルのデータ変換、文字情報のデータ変換、表データのグラフ化	ワークシート提出
6		講義	条件別対象者抽出 (1) 特典対象者の条件だし及びデータ抽出	ワークシート提出
7		演習	条件別対象者抽出 (2) 先行券売対象者の条件だし及びデータ抽出	ワークシート提出
8		演習	活動戦略 (1) 過去の収支、今後の活動予定を元に今後の活動戦略をグループ討論	プレゼンテーション準備
9		演習	活動戦略 (2) 活動戦略を予算書へ反映しプレゼンを行う	プレゼン資料提出
10		講義	券売スケジュール 会員増加を目的とした券売スケジュール組み及び対象者データの扱い、申込受付について	ワークシート提出
11		演習	ライティング アーティストの行動やリアクションの文章表現	ワークシート提出
12		講義	特典ノベルティ制作 (1) 特典概要、グッズとの違い、規格について	レポート
13		講義・演習	特典ノベルティ制作 (2) 部数の算出、制作スケジュール、アイテム企画	ワークシート提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			設定した目的と前週を振り返り、復習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
指定教科書なし。必要に応じて資料を配付する。				

科目名	ファンクラブビジネス (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	これまで数多くのアーティストマネージャーを務め、様々な現場でプロデューサー、舞台監督、デザイナーとして活躍するいくつもの顔を持っているマルチ業界人。						
授業の学習 内容	ファンクラブ、音楽業界の基礎知識を学び、実習を通して即戦力となる人材育成を行うカリキュラム。 基礎知識として主に下記項目を主な学習内容とする。 ・会報誌の企画～発送までの一連の業務に必要な基礎知識や実務を学習する。 ・ファンクラブコンテンツ提供に適した文章力を身に付ける。 ・有形特典の制作に必要な基礎知識や実務を学習する。 ・クローズドならではのイベントの考え方を知り、イベント企画、プロモーション、運営について学ぶ。 ・企画した内容を周囲により分かりやすく伝えるためのアウトプットする術を学習し身につける。						
到達目標	・会報誌の制作に必要な資料を準備し、発送完了までの段取りが組める。 ・コンテンツ企画書の作成、ライティングなどのコンテンツ制作ができる。 ・特典ノベルティとグッズの違いを述べることができ、特典ノベルティの企画～発送まで進行できる。 ・一般的なコンサート/ライブとファンクラブイベントの違いを述べることができ、アーティストの特徴を活かしたFCイベントの企画ができる。						
評価方法と基準	授業毎のレポート/ワークシートによって成績を判定します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習 (学習課題)
1		講義・演習	会報誌制作 (1) 会報誌の概要、ディテール、台割作成	ワークシート提出
2		講義・演習	会報誌制作 (2) 会報誌向けコンテンツの企画	ワークシート提出
3		講義・演習	会報誌制作 (3) 製本について、校正の基本	ワークシート提出
4		講義・演習	会報誌制作 (4) 発行部数、発送対象者、対象者へのフォローについて	ワークシート提出
5		講義・演習	有客イベント時の会場施策 (1) イベント会場での会員増加機会を狙う施策について	ワークシート提出
6		講義・演習	有客イベント時の会場施策 (2) イベント会場に設置するブース運営について	ワークシート提出
7		講義・演習	有客イベント時の会場施策 (3) イベント会場内受付窓口の対応マニュアルの作成について	ワークシート提出
8		講義・演習	有客イベント時のコンテンツ企画制作 (1) WEBサイト上に展開する有客イベントのコンテンツを企画する	ワークシート提出
9		講義・演習	有客イベント時のコンテンツ企画制作 (2) WEBサイト上に展開する有客イベントのコンテンツの制作について	ワークシート提出
10		講義・演習	FCイベント企画 (1) 一般集客イベントとの違い、イベント内容の企	ワークシート提出
11		講義・演習	FCイベント企画 (2) 宣伝及び券売について	ワークシート提出
12		講義・演習	FCイベント企画 (3) 入場者の本人確認及び当選データの取り扱い	ワークシート提出
13		講義・演習	FCイベント企画 (4) 会員認証マニュアルの作成	ワークシート提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1999年に結成したロックバンド「Do As Infinity」ではギターを担当。その他ミサイルイノベーション、THE JUGGLERのメンバーとして活躍。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1999年に結成したロックバンド「Do As Infinity」ではギターを担当。その他ミサイルイノベーション、THE JUGGLERのメンバーとして活躍。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数人バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。 PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
12		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。 最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲Unit1のアンサンブル。2010年代のFUNKから入り、FUNKの楽しさを知る。	Unit1の復習。FUNKの名曲を調べる
2		演習	課題曲Unit1のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit2の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		演習	課題曲Unit2のアンサンブル。難易度の低いFUNK曲でシンプルなノリを重視する。	Unit2の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		演習	課題曲Unit2のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回Unit3の課題曲の予習をする。
5		演習	課題曲Unit3のアンサンブル。ディスコミュージックを課題曲にダンスミュージックの楽しさを知る。	Unit3の復習。FUNKの名曲を調べ、視聴する。
6		演習	課題曲Unit3のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit4の課題曲の予習
7		演習	課題曲Unit4のアンサンブル。1980年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit4の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
8		演習	課題曲Unit4のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit5の課題曲の予習
9		演習	課題曲Unit5のアンサンブル。1970年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit5の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		演習	課題曲Unit5のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit6の課題曲の予習
11		演習	課題曲Unit6のアンサンブル。難易度の高いFUNK曲にチャレンジする。	Unit6の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
12		演習	課題曲Unit6のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	中間発表に向けて練習する。
13		演習・試験	前期のまとめとして中間発表を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Funk Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	卒業制作展までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	課題曲Unit7のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit7の復習。FUNKの名曲を調べる
2		演習	課題曲Unit7のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit7の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		演習	課題曲Unit8のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit8の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		演習	課題曲Unit8のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回卒業制作展の課題曲の予習をする。
5		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
6		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
7		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
8		演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	次回Unit9の課題曲の予習
9		演習	課題曲Unit9のアンサンブル。卒業制作展課題曲とは異なる楽曲に取り組む。	Unit9の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展データ取り12/19に向けて練習する
11		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
12		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
13		演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	R&Bアンサンブルについての概要説明。 Unit0課題曲のアンサンブルを実践。	授業で学んだ内容について復習。Unit1楽曲の予習。
2		演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
3		演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	Unit1楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit2楽曲の予習。
4		演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
5		演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	Unit2楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit3楽曲の予習。
6		演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
7		演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	Unit3楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit4楽曲の予習。
8		演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
9		演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	Unit4楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit5楽曲の予習。
10		演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
11		演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	Unit5楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit6楽曲の予習。
12		演習	中間発表に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。バンドや発表曲の練習をする。
13		演習	中間発表で本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう体調管理を含めた自己管理の大切さを学び、本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源、歌詞、譜面資料(Teamsにて共有)				

科目名	R&B Ensemble(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	中間発表に向けてのリハーサル、練習を行う。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。 バンドや発表曲の練習をする。
2		演習	中間発表に参加し、本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう、体調管理を含めた自己管理の大切さを学ぶ。本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
3		演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
4		演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(1)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。次週楽曲の予習。
5		演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
6		演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(2)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Voオーディションに向け準備。
7		演習	WeAre楽曲、ボーカルオーディションを行う。	自分の担当曲以外も歌唱、演奏できるように準備しておく。
8		演習	Motownメドレー、曲サイズ、アレンジの確認。	1曲あたりが短いので、各曲のイメージをよりはっきりと掴んでおく。
9		演習	Motownメドレー、曲間、転換の確認。	メドレー内での転換がスムーズにいくように、音作りや立ち位置、マイクの受け渡しなど明確にしておく。
10		演習	Motownメドレー、振付、衣装などステージングの確認。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際のアーティスト達の映像や写真を見て、動きや立ち姿、衣装の研究をする。
11		演習	Xmasソングのアンサンブルを実践する。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際に通してみての改善点などを発見し、ブラッシュアップする。次週曲の予習。
12		演習	卒業・進級制作に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	Xmasヒットソングのレパートリーを増やす。 Merry Christmas!
13		演習	卒業・進級制作で本番経験を積む。	衣装、転換など含めた最終RH。良いイメージを固めて本番に向けて各々仕上げ&体調管理を徹底する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源、歌詞、譜面資料(Teamsにて共有)				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keybord Inst Ensemble Style (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Guitar Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Bass Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーナ、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Drum Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺 良太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Keyboard Inst Ensemble Style (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2005年リットーミュージック主催、最強プレイヤーズ・コンテストにおいてグランプリ受賞。2008年「BIANCA」のメンバーとしてメジャー・デビューを飾る。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rec Basic (1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	田中実
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	レコーディングエンジニア。スタジオシャングリラ、スタジオICCを経てフリーランスに。SHANGRI-LA.inc 所属						
授業の学習 内容	プロのレコーディングエンジニアになる為に必要なミキシングコンソール、PROTOOLSなどの基本的な使い方を覚える。頭にいれるだけではなく、体が覚えるまで反復練習を繰り返し行い技術を習得する。						
到達目標	プロのレコーディングエンジニアとして就職を目指し、まずはアシスタント業務を円滑に行えるようになるまでの操作技術とコミュニケーション能力を養う。						
評価方法と基準	筆記または実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	SSLスタジオの説明、電源の入れ方、CDの聞き方を覚える	レポート提出
2		演習	マイク、スタンドの説明。CDを卓に立ち上げて聞いてみる	レポート提出
3		演習	SSLの信号の流れ、MICを立ち上げて音がだせるようになる。Protoolsに録音してみる	レポート提出
4		演習	SSLの信号の流れ、AUX SENDを使ってエフェクターのセッティングを覚える	レポート提出
5		演習	SSLの信号の流れ、CUEBOXへの送り方と使い方を学ぶ	レポート提出
6		演習	基本的なProtoolsのオペレーション操作を覚える	レポート提出
7		演習	Vo レコーディング シュミレート練習1 マイクセッティングをしてVoレコーディングする準備を自分達だけでできるように練習する	レポート提出
8		演習	Vo レコーディング シュミレート練習2 パンチインの練習などをして操作に慣れる	レポート提出
9		演習	Vocal レコーディング 実際にVoを呼んでレコーディングをしてみる。これまで勉強したことがどこまで覚えられているか確認と実践練習	レポート提出
10		演習	前の週に録音したデータを確認しつつ、次回のレコーディングに向けて反省と理解できていないところの復習	レポート提出
11		演習	試験練習	試験
12		演習	前期試験（実技）	試験
13		演習	前期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組み期限内に提出	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rec Basic (2)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	田中実
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	レコーディングエンジニア。スタジオシャングリラ、スタジオICCを経てフリーランスに。SHANGRI-LA.inc 所属						
授業の学習 内容	プロのレコーディングエンジニアになる為に必要なミキシングコンソール、PROTOOLSなどの基本的な使い方を覚える。頭にいれるだけではなく、体が覚えるまで反復練習を繰り返し行い技術を習得する。						
到達目標	プロのレコーディングエンジニアとして就職を目指し、まずはアシスタント業務を円滑に行えるようになるまでの操作技術とコミュニケーション能力を養う。						
評価方法と基準	筆記または実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習	前期の復習振り返りと楽器知識の予習。
2		講義・演習	ドラム・ベースレコーディングセッティング練習①	ドラム・ベースレコーディングセッティング練習①振り返りと楽器知識の予習。
3		講義・演習	ギター・キーボードレコーディングセッティング練習②	ギター・キーボードレコーディングセッティング練習②振り返りと楽器知識の予習。
4		講義・演習	各種楽器レコーディング演習	各種楽器レコーディング演習振り返りと楽器知識の予習。
5		講義・演習	前週の反省点などを改善、トレーニング	前週の反省点などを改善、トレーニングについて振り返りとまとめ
6		講義・演習	3人編成バンドレコーディングセッティング練習①	3人編成バンドレコーディングセッティング練習①振り返りと自習。
7		講義・演習	4人編成バンドレコーディングセッティング練習②	4人編成バンドレコーディングセッティング練習②振り返りと自習。
8		講義・演習	5～6人編成バンドレコーディングセッティング練習③	5～6人編成バンドレコーディングセッティング練習③振り返りと自習。
9		講義・演習	バンドレコーディング演習①	バンドレコーディング演習①振り返りと自習。
10		講義・演習	バンドレコーディング演習②	バンドレコーディング演習②振り返りと自習。
11		講義・演習	前週の反省点などを改善、トレーニング	前週の反省点などを改善、トレーニング
12		試験	実技試験	試験対策 復習
13		講義・演習	後期の復習	後期に覚えたことを復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組み期限内に提出	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Recワークショップ(1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60		
					4単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールズ)の基本的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年間の計画 機材廻り信号の流れ①	ノート復習
2		演習	音の聴き方①	楽曲準備 解析復習
3		演習	プロツールズについて	WEBサイト閲覧
4		演習	マイク①	マイク情報収集
5		演習	エフェクター①	エフェクター情報収集
6		演習	機材廻り信号の流れ②	ノート復習
7		演習	レコーディング①	シグナルフロー復習
8		演習	学園祭総括 世の中にある機材の情報収集	WEBサイト閲覧
9		演習	音の聴き方②	楽曲準備 解析復習
10		演習	レコーディング②	シグナルフロー復習
11		演習	明日への扉に向けて 機材廻りの解説①	配布資料確認
12		演習	明日への扉に向けて 機材廻りの解説②	配布資料確認
13		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	Recワークショップ(2)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60		
					4単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張っ て参加し学習してください。実技と座学で機材 & 音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい 靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファ レンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールズ)の基本 的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ライブRec総括とミックス作業概要説明	ノート復習
2		演習	マイク② 楽器録音①	録音ファイル復習聴取
3		演習	楽器録音② エフェクター③	プラグイン復習操作
4		演習	楽器録音② エフェクター④	プラグイン復習操作
5		演習	サラウンド①	サラウンド情報収集
6		演習	サラウンド①	サラウンド情報収集
7		演習	ハンダ付け①	ケーブルチェック
8		演習	明日への扉 ミックス作業	ワークフロー復習
9		演習	音の聴き方③	楽曲準備 解析復習
10		演習	サラウンド④	サラウンド情報収集
11		演習	テスト マスタリングについて	配布資料確認
12		演習	ラウドネスレベルについて	配布資料確認
13		試験・演習	総括としての演習試験	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	ソングライティングゼミ(1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	宇津本 直紀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	1994年、DEENにドラムス・コーラス担当として加入。 「未来のために」(日本テレビプロ野球中継テーマソング・オリコン1位獲得) 「夢であるように」(namco テイルズ・オブ・ディステニー テーマソング) 「MY LOVE」(フジテレビドラマ・風の行方 主題歌) などの作曲を手がける。 また、クレジットはされていないものの「ひとりじゃない」(ドラゴンボールGT エンディングテーマソング)の作詞も一部手がけた。 2000年にDEENを脱退後、フリーランスで作曲・プロデュース活動。NHK「音の風景」BGM、au携帯電話CMソング、ダノンヨーグルトCMソングなどを作曲・制作。 2005年株式会社ビーイングにディレクターとして入社。美元智衣(ビーグラムレコーズ)、アツミサオリ(ランティス)などの原盤制作・マネジメントを担当、オーディション事務局を兼任。この間に音楽制作の現場で、ボーカルレコーディング、育成中の新人の歌唱指導を多数経験する。 2010年に独立、神部冬馬(ベルウッドレコード)のアルバムプロデュース、ジェームス小野田(米米クラブ)・上野優華(キングレコード)などへの楽曲提供。プライベートスタジオで主宰するプロ志望者向けの音楽塾からはGacharic Spin (ビクター)メンバー・ねんね、岩永知佳(郷ひろみコンサート・宮本亜門演出のミュージカルなどの編曲者)、関根佑樹(MS.OOJA、上野優華などの編曲者)を輩出。						
授業の学習 内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから親た楽曲の役割を学ぶ。 課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。						
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れ	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れについて振り返りレポートをまとめる。	
2		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割口	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割について振り返りレポートをまとめる。	
3		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れ	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れについて振り返りレポートをまとめる。	
4		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？ について振り返りレポートをまとめる。	
5		講義・演習	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？について振り返りレポートをまとめる。	
6		講義・演習	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音について振り返りレポートをまとめる。	
7		講義・演習	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンション	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンションについて振り返りレポートをまとめる。	
8		講義・演習	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方について振り返りレポートをまとめる。	
9		講義・演習	作曲理論⑤劇伴について	作曲理論⑤劇伴について振り返りレポートをまとめる。	
10		講義・演習	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Okey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法を学びます。	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Okey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法について振り返りレポートをまとめる。	
11		講義・演習	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 前週学んだ楽曲分析の方法をつかってみんなで実際に楽曲を分析してみます。また、楽曲分析の課題を指示します。	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 楽曲分析の課題に対して、レポートをまとめる。	
12		講義・演習	楽曲分析の個別指導	次回テストに向けたデモ楽曲の制作	
13		試験	定期テスト		
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	ソングライティングゼミ(2)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	宇津本 直紀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	1994年、DEENにドラムス・コーラス担当として加入。 「未来のために」(日本テレビプロ野球中継テーマソング・オリコン1位獲得) 「夢であるように」(namco テイルズ・オブ・ディステニー テーマソング) 「MY LOVE」(フジテレビドラマ・風の行方 主題歌) などの作曲を手がける。 また、クレジットはされていないものの「ひとりじゃない」(ドラゴンボールGT エンディングテーマソング)の作詞も一部手がけた。 2000年にDEENを脱退後、フリーランスで作曲・プロデュース活動。NHK「音の風景」BGM、au携帯電話CMソング、ダノンヨーグルトCMソングなどを作曲・制作。 2005年株式会社ビーイングにディレクターとして入社。美元智衣(ビーグラムレコーズ)、アツミサオリ(ランティス)などの原盤制作・マネジメントを担当、オーディション事務局を兼任。この間に音楽制作の現場で、ボーカルレコーディング、育成中の新人の歌唱指導を多数経験する。 2010年に独立、神部冬馬(ベルウッドレコード)のアルバムプロデュース、ジェームス小野田(米米クラブ)・上野優華(キングレコード)などへの楽曲提供。プライベートスタジオで主宰するプロ志望者向けの音楽塾からはGacharic Spin (ビクター)メンバー・ねんね、岩永知佳(郷ひろみコンサート・宮本亜門演出のミュージカルなどの編曲者)、関根佑樹(MS.OOJA、上野優華などの編曲者)を輩出。						
授業の学習 内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから親た楽曲の役割を学ぶ。 課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。						
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記40% 実技60%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れ	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れについて振り返りレポートをまとめる。	
2		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割口	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割について振り返りレポートをまとめる。	
3		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れ	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れについて振り返りレポートをまとめる。	
4		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？ について振り返りレポートをまとめる。	
5		講義・演習	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？について振り返りレポートをまとめる。	
6		講義・演習	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音について振り返りレポートをまとめる。	
7		講義・演習	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンション	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンションについて振り返りレポートをまとめる。	
8		講義・演習	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方について振り返りレポートをまとめる。	
9		講義・演習	作曲理論⑤劇伴について	作曲理論⑤劇伴について振り返りレポートをまとめる。	
10		講義・演習	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Okey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法を学びます。	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Okey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法について振り返りレポートをまとめる。	
11		講義・演習	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 前週学んだ楽曲分析の方法をつかってみんなで実際に楽曲を分析してみます。また、楽曲分析の課題を指示します。	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 楽曲分析の課題に対して、レポートをまとめる。	
12		講義・演習	楽曲分析の個別指導	次回テストに向けたデモ楽曲の制作	
13		試験	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめ	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめについて振り返り、レポートをまとめる。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	ダンスミュージックアナライズ(1)	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	横野康平
		授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 4単位		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	E-girls-、AAA、2PM、ジャニーズWEST、KAT-TUN、KARA、後藤真希、May J.、田村ゆかり等、多数の著名なアーティストに楽曲提供を行なっている作曲家、アレンジャー。2015年以降講師としても活躍。						
授業の学習 内容	①世界中に存在するダンスミュージックの技法を分析し各自技のレパートリーに取り入れコンペで目立つ楽曲を出せるようにするのが目的。②プリプロやセルフプロデュースと関連づけコンペ対策にする。③各ジャンルに収まらない作品作りに努めてもらいたい。③ビルボードランキングやBeatport、YouTubeなどから技法を見つけ出し作曲やマニピュレート、トラックメイキングに必要なミックス技法を研究分析し実際にその技法を使ってコピーまたはオリジナルを作る。						
到達目標	学んだ技法を自由自在に各自の作品へ取り入れることが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) ※1コーラステストのクオリティ:70% 音色作りのクオリティ:30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実習	Electro House-ダンスミュージックの基本的なオートメー書などを理解し使えるようになる事		Electro House-ダンスミュージックの基本的なオートメー書などを理解し使えるようになる事 振り返りと自習。
2		講義・実習	Electro Pop-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる事		Electro Pop-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる事 振り返りと自習。
3		講義・実習	FrenchHouse-フィルターを多用したシーン展開が出来るようになる事		FrenchHouse-フィルターを多用したシーン展開が出来るようになる事 振り返りと自習。
4		講義・実習	Complextro House-音色又はフレーズのコーラージュで楽曲を制作出来るようになる事		Complextro House-音色又はフレーズのコーラージュで楽曲を制作出来るようになる事 振り返りと自習。
5		講義・実習	Drum&Bass-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		Drum&Bass-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
6		講義・実習	DubStep-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		DubStep-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
7		講義・実習	OldSchoolHipHop-用意したサンプルを使い制作出来るようになる		OldSchoolHipHop-用意したサンプルを使い制作出来るようになる 振り返りと自習。
8		講義・実習	DirtyTrap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		DirtyTrap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
9		講義・実習	DeepTrap又はChill Trap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		DeepTrap又はChill Trap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
10		講義・実習	GlitchHop-スイングしたビートを作れるようになる		GlitchHop-スイングしたビートを作れるようになる 振り返りと自習。
11		講義・実習	2step-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		2step-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
12		講義・実習	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
13		試験	期で学んだ事を使って①コーラス制作を約180分完了させる事		
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ		レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ		レポート提出
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	ダンスミュージックアナライズ(2)	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	横野康平
		授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 4単位		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	E-girls、AAA、2PM、ジャニーズWEST、KAT-TUN、KARA、後藤真希、May J.、田村ゆかり等、多数の著名なアーティストに楽曲提供を行なっている作曲家、アレンジャー。2015年以降講師としても活躍。						
授業の学習 内容	①世界中に存在するダンスミュージックの技法を分析し各自のレパートリーに取り入れコンペで目立つ楽曲を出せるようにするのが目的。②プリプロやセルフプロデュースと関連づけコンペ対策にする。③各ジャンルに収まらない作品作りに努めてもらいたい。③ビルボードランキングやBeatport、YouTubeなどから技法を見つけ出し作曲やマニピレート、トラックメイキングに必要なミックス技法を研究分析し実際にその技法を使ってコピーまたはオリジナルを作る。						
到達目標	学んだ技法を自由自在に各自の作品へ取り入れることが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) ※1コーラステストのクオリティ:70% 音色作りのクオリティ:30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FutureHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	FutureHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。	
2		講義・演習	Kawaii bass-kawaii音をふんだんに使い解説を元に実施に作ってみる	Kawaii bass-kawaii音をふんだんに使い解説を元に実施に作ってみる 振り返りと自習。	
3		講義・演習	Future bass-切ないコード進行の分析を行った後Dropで使われている手法を習得する	Future bass-切ないコード進行の分析を行った後Dropで使われている手法を習得する 振り返りと自習。	
4		講義・演習	Wave(ジャンル)の習得 - 変化するPadやワイドなベースなど分析し参考曲を元に作ってみる	Wave(ジャンル)の習得 - 変化するPadやワイドなベースなど分析し参考曲を元に作ってみる 振り返りと自習。	
5		講義・演習	Lofisound-LofiHipHopなどに使われる手法を習得し作品をつくってみる	Lofisound-LofiHipHopなどに使われる手法を習得し作品をつくってみる 振り返りと自習。	
6		講義・演習	EuroBteat-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	EuroBteat-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。	
7		講義・演習	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。	
8		講義・演習	2000年代初期RnB。参考曲を分析し実際作ってみる	2000年代初期RnB。参考曲を分析し実際作ってみる 振り返りと自習。	
9		講義・演習	ElectroSwing-BigBandSampleなどをサンプリングし説明を参考にし実際に作ってみる	ElectroSwing-BigBandSampleなどをサンプリングし説明を参考にし実際に作ってみる 振り返りと自習。	
10		講義・演習	ElectroJazz - Anomalieなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜられるようになる	ElectroJazz - Anomalieなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜられるようになる 振り返りと自習。	
11		講義・演習	ElectroJazz - FKJなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜられるようになる	ElectroJazz - FKJなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜられるようになる 振り返りと自習。	
12		講義・演習	2019年Billboard Ranking top30内の楽曲と分析と技術の習得	2019年Billboard Ranking top30内の楽曲と分析と技術の習得 振り返りと自習。	
13		試験	後期で学んだ事を使って1コーラスdemoを180分で完了させる		
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					

科目名	シンセサイジング&DTM Advance 1	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	阿瀬文彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	作曲家、マニピュレーター、ギタリスト。2010年プロデューサー佐久間正英に見い出されエレクトロニカ・ユニットCajokでデビュー。現在はCMや映画音楽に携わり2020年最新作はボカリスエットCM「ボカリNEO合唱ドキュメンタリー完全版」音楽担当。サンレコ誌では製品レビュー執筆も多数手がける。						
授業の学習 内容	1.複数のDAWを使いサウンド構築でのレベルの高い技法を身につける。 2.業界標準音源パッケージNative Instruments社 KOMplete 12 ULTIMATE収録の音源&シンセの使い方をマスター。 3.クリエイターとしての楽曲のミキシング・テクニックを身につける。						
到達目標	学習したテクニックを取り入れ、楽曲にインパクト、力強さ、説得力を与え、多くの人の耳に届くサウンドになる。クリエイターとして作曲からミックスまでの仕事を受けれるようになる。						
評価方法及び基準	定期テスト(実技試験:100%) * 楽曲(30秒ほど)のクオリティ: 70% ミキシングのバランス: 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実習	講師制作の楽曲プロジェクトを公開し音源やシンセをどのように使ってるか解説。	左記振り返りと復習
2		講義・実習	シンセ、プラグインのオートメーション・テクニック	シンセ、プラグインのオートメーション・テクニック。振り返りと自習。
3		講義・実習	ディレイ、リバーブの効果的な使い方	ディレイ、リバーブの効果的な使い方。振り返りと自習
4		講義・実習	アルペジエーターを使用したシンセフレーズの組み立て	アルペジエーターを使用したシンセフレーズの組み立て。振り返りと自習。
5		講義・実習	MASSIVE Xの仕組みを学ぶ	NI MASSIVE Xの仕組みを学ぶ。振り返りと自習
6		講義・実習	MASSIVE Xで目的の音色を作れるようにする	MASSIVE Xで目的の音色を作れるようにする。振り返りと自習。
7		講義・実習	RK-01でエレクトロニックなベースとリズムを組み立てる	RK-01でエレクトロニックなベースとリズムを組み立てる。振り返りと自習。
8		講義・実習	STRUMMED ACOUSTIC 2を使ったアコギの打ち込み	STRUMMED ACOUSTIC 2を使ったアコギの打ち込み。振り返りと自習。
9		講義・実習	ELECTRIC SUNBURSTを使ったエレキギターの打ち込み	ELECTRIC SUNBURSTを使ったエレキギターの打ち込み。振り返りと自習。
10		講義・実習	SESSION STRINGS PRO 2を使ったストリングスの打ち込み	SESSION STRINGS PRO 2を使ったストリングスの打ち込み。振り返りと自習。
11		講義・実習	RISE & HITを使用し楽曲にリバース音とアタック音を加えて楽曲にインパクトを与える	RISE & HITを使用しリバース音とアタック音を加えて楽曲にインパクトを与える。振り返りと自習。
12		講義・実習	EVOLVEのループを使用しエレクトロニックなリズムの構築	EVOLVEのループを使用しエレクトロニックなリズムの構築。振り返りと自習。
13		試験	講師が用意するデータを元に曲の構築	試験対策・復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シンセサイジング&DTM Advance 2	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	阿瀬文彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	作曲家、マニピュレーター、ギタリスト。2010年プロデューサー佐久間正英に見い出されエレクトロニカ・ユニットCajokでデビュー。現在はCMや映画音楽に携わり2020年最新作はボカリスエットCM「ボカリNEO合唱 ドキュメンタリー完全版」音楽担当。サンレコ誌では製品レビュー執筆も多数手がける。						
授業の学習 内容	1.複数のDAWを使いサウンド構築でのレベルの高い技法を身につける。 2.業界標準音源パッケージNative Instruments社 KOMplete 12 ULTIMATE収録の音源&シンセの使い方をマスター。 3.クリエイターとしての楽曲のミキシング・テクニックを身につける。						
到達目標	学習したテクニックを取り入れ、楽曲にインパクト、力強さ、説得力を与え、多くの人の耳に届くサウンドになる。 クリエイターとして作曲からミックスまでの仕事を受けれるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) * 楽曲(30秒ほど)のクオリティ: 70% ミキシングのバランス: 30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・実習	EMOTIVE STRINGSを使用したストリングスのレガート・フレーズの打ち込み	EMOTIVE STRINGSを使用したストリングスのレガート・フレーズの打ち込み。振り返りと自習。	
2		講義・実習	ACTION STRINGSとキースイッチを組み合わせたストリングス・パターン組み立て	ACTION STRINGSとキースイッチを組み合わせたストリングス・パターン組み立て。振り返りと自習。	
3		講義・実習	DAMAGEで映画音楽のような迫力あるリズムを構築	DAMAGEで映画音楽のような迫力あるリズムを構築。振り返りと自習。	
4		講義・実習	シネマティック音源THRILLを使用したSE制作	THRILLを使用したSE制作。振り返りと自習。	
5		講義・実習	音源ではなく生ドラム素材(講師が用意)の処理を学ぶ	音源ではなく生ドラム素材(講師が用意)の処理を学ぶ。振り返りと自習。	
6		講義・実習	オーケストラ音源SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ1	SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ1。振り返りと自習。	
7		講義・実習	オーケストラ音源SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ2	SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ2。振り返りと自習。	
8		講義・実習	映像音楽を制作する際のDAWやシンセの使い方を学ぶ	映像音楽を制作する際のDAWやシンセの使い方を学ぶ。振り返りと自習。	
9		講義・実習	クリエイターとして必要なミックス・テクニックを学ぶ	クリエイターとして必要なミックス・テクニックを学ぶ。振り返りと自習。	
10		講義・実習	クリエイターとしてデモ提出で大切なマスタリングを学ぶ	クリエイターとしてデモ提出で大切なマスタリングを学ぶ。振り返りと自習。	
11		講義・実習	各DAWの音質を聞き比べて特性を理解する	自作楽曲のパラデータ(全てオーディオで)があれば持参してください	
12		講義・実習	講師が用意するデータを元に曲の構築	試験対策・復習	
13		試験	シンサイジングで身につけた技術を活用して1コーラスのインスト音源を作成して提出	シンサイジングで身につけた技術を活用して1コーラスのインスト音源を作成について、振り返りレポート作成。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	ProTools for Creator's 1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	Pro Tools Softの理解と基本的なミキシング、マスタリング方法を学ぶ						
到達目標	Pro Tools Softの理解と基本的な打ち込み、ミキシング、マスタリング Maができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Pro Toolsの基本に対する理解。	Pro Toolsの基本に対する理解。 振り返りと自習。
2		講義・演習	セッションのセットアップが出来る。。	セッションのセットアップが出来る。 振り返りと自習。
3		講義・演習	オーディオをインポート、トラックの並べ変えについて	オーディオをインポート、トラックの並べ変えについて 振り返りと自習。
4		講義・演習	定位とボリュームをセットアップ	定位とボリュームをセットアップ 振り返りと自習。
5		講義・演習	Eqに配置と基本的な使用方法	Eqに配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
6		講義・演習	コンプレッサー配置と基本的な使用方法	コンプレッサー配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
7		講義・演習	リバーブ配置と基本的な使用方法	リバーブ配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
8		講義・演習	空間系エフェクト配置と基本的な使用方法	空間系エフェクト配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
9		講義・演習	Automationを作成	Automationを作成 振り返りと自習。
10		講義・演習	マスタートラックとサブミックスバス	マスタートラックとサブミックスバス 振り返りと自習。
11		講義・演習	Mastering EQ を設定してmixを整える	Mastering EQ を設定してmixを整える 振り返りと自習。
12		講義・演習	Limiter と Compressionを設定	Limiter と Compressionを設定 振り返りと自習。
13		試験	前期課題のmixの提出	データの整理と管理
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools for Creator's 2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	Pro Tools Softの理解と基本的なミキシング、マスタリング方法を学ぶ						
到達目標	Pro Tools Softの理解と基本的な打ち込み、ミキシング、マスタリング Maができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験: 100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	バーチャルインストゥルツ1	バーチャルインストゥルツ1 振り返りと自習。
2		講義・演習	バーチャルインストゥルツ2	バーチャルインストゥルツ2 振り返りと自習。
3		講義・演習	エラスティックタイムとオーディオ	エラスティックタイムとオーディオ 振り返りと自習。
4		講義・演習	外部サンプルをロードする。	外部サンプルをロードする。 振り返りと自習。
5		講義・演習	外部サンプルでリズムの構築	外部サンプルでリズムの構築 振り返りと自習。
6		講義・演習	ループ素材のタイムストレッチ	ループ素材のタイムストレッチ 振り返りと自習。
7		講義・演習	Post Production	Post Production 振り返りと自習。
8		講義・演習	Ma作業の基本	Ma作業の基本 振り返りと自習。
9		講義・演習	Ma作業1 映像とのシンクについて	Ma作業1 映像とのシンク1 振り返りと自習。
10		講義・演習	Ma作業2 映像とのシンク2	Ma作業2 映像とのシンク2 振り返りと自習。
11		講義・演習	Mastering1 エフェクトの種類	Mastering1 エフェクトの種類 振り返りと自習。
12		講義・演習	Mastering2 エフェクトの配置	Mastering2 エフェクトの配置 振り返りと自習。
13		試験	後期mix課題提出	データの整理と管理
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	劇伴音楽制作ゼミⅡ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	RUI
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	主に短編映画、ゲーム、コンテンツなど楽曲提供を中心に活動する。 アーティストの楽曲の編曲なども手掛ける。						
授業の学習 内容	映画、CM、ゲーム業界の中に求められている音楽スキルを身につけ、様々な音楽ジャンルの知識と感性を磨き、在校中により完成度の高い作品を作るのが目標です。 前期は、作曲編曲技法、様々な音楽ジャンルの基本知識を中心に、後期は映画、CMなどコンテンツに合わせて実践する方針で行います。						
到達目標	・歌物と異なる作曲編曲技法の全般、打ち込みのコツからミックスまで、一人作業の最低限必要なスキルを身につける。・文字や物から生み出すイメージで、感情移入させる曲を作る。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(課題曲提出70% 筆記30%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	劇伴概論	小テスト(採点しない)
2		講義・演習	モード作曲法Ⅰ	8-16小節の課題
3		講義・演習	メロディー作り方	講義の内容を理解し、曲を分析する
4		講義・演習	オブリガート	オブリガートの重要性と役割を理解し、応用できるように
5		講義・演習	モード作曲法Ⅱ	モード作曲法Iの課題をリメイク
6		講義・演習	アンビエント音楽	選曲課題
7		講義・演習	ホラー系音楽	選曲課題
8		講義・演習	リハーモナイズ	課題提出
9		講義・演習	変奏作曲技法	課題提出
10		講義・演習	対位法(基礎編)Ⅰ	プリント復習
11		講義・演習	対位法(基礎編)Ⅱ	課題提出
12		講義・演習	弦楽アレンジⅠ	プリント復習
13		講義・演習	弦楽アレンジⅡ	課題提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
プリント(授業内容の順番を変える可能性があります)。				

科目名	劇伴音楽制作ゼミⅡ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	RUI
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	主に短編映画、ゲーム、コンテンツなど楽曲提供を中心に活動する。 アーティストの楽曲の編曲なども手掛ける。						
授業の学習 内容	映画、CM、ゲーム業界の中に求められている音楽スキルを身につけ、様々な音楽ジャンルの知識と感性を磨き、在校中により完成度の高い作品を作るのが目標です。 前期は、作曲編曲技法、様々な音楽ジャンルの基本知識を中心に、後期は映画、CMなどコンテンツに合わせて実践する方針で行います。						
到達目標	・歌物と異なる作曲編曲技法の全般、打ち込みのコツからミックスまで、一人作業の最低限必要なスキルを身につける。・文字や物から生み出すイメージで、感情移入させる曲を作る。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(課題曲提出70% 筆記30%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブルース	課題提出
2		講義・演習	ゲーム音楽	選曲課題
3		講義・演習	オーケストレーション作曲技法実技	プリント復習
4		講義・演習	ゲームオーケストレーション	課題提出
5		講義・演習	CM、コンテンツ音楽制作	映像素材を基にした劇伴作品を提出
6		講義・演習	ジングル、サウンドロゴ	課題提出(自由)
7		講義・演習	映画音楽制作Ⅰ	選曲課題
8		講義・演習	映画音楽制作Ⅱ	課題提出
9		講義・演習	標題音楽	プリント復習
10		講義・演習	カルテットⅠ or ドラマCD制作Ⅰ	特別講義。生徒の意向で内容を決める
11		講義・演習	カルテットⅡ or ドラマCD制作Ⅱ	デモ提出
12		講義・演習	カルテットⅢ or ドラマCD制作Ⅲ	レコーディング / アルバム制作
13		講義・演習	課題発表	感想、学んだこと
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
プリント(授業内容の順番を変える可能性があります)				

科目名	イベント制作運営演習(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	唐澤淳
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	これまで数多くのアーティストマネージャーを務め、様々な現場でプロデューサー、舞台監督、デザイナーとして活躍するいくつもの顔を持っているマルチ業界人。						
授業の学習 内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出 30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。 それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考にに関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ 制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
7		演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ 制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
8		演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする 制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
9		演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
10		演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する 制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
11		演習	運営：運営マニュアル読み合わせ 制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
12		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度「明日への扉」公演マニュアル・概要書・終了報告書・今年度「明日への扉」台本				

科目名	イベント制作運営演習(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	唐澤淳
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部二						
教員の略歴	これまで数多くのアーティストマネージャーを務め、様々な現場でプロデューサー、舞台監督、デザイナーとして活躍するいくつもの顔を持っているマルチ業界人。						
授業の学習 内容	卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出 30% 「卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！」に関する積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。 それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考にに関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要とコンセプト内容を学ぶ 制作：公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7		演習	運営：座席管理方法を学ぶ 制作：公演演出の流れを理解し機材の管理を行う	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8		演習	運営：運営マニュアルの作成方法を学び作成する 制作：制作スケジュールの作成・各セクション番表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9		演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10		演習	運営：運営方法を学び作成する 制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11		演習	運営：運営マニュアルの読み合わせ 制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
13		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
14		実習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15		実習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度「卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！」公演マニュアル・概要書・終了報告書				